倉敷埋蔵文化財センター年報 15

ー平成 25・26 年度ー

倉敷埋蔵文化財センター

2016.3

序　文

本書は、倉敷埋蔵文化財センターが平成25年度と26年度に実施した、発掘調査事業ならびに教育普及事業について、その概要をまとめたものです。

発掘調査事業では、軽微な工事に伴う立会調査や宅地造成などに伴う事前の確認調査が主であり、大規模な開発工事に伴う全面発掘調査はありませんでした。ここ数年の発掘届出件数を見てみると、民間からのものとしては、個人住宅の新築や建て替えに伴うものが多くなってきている状況がうかがえます。これは法令等の改正により不動産業者に文化財保護法重視の意識が浸透してきた結果と思われ、これまで十分ではなかった個人住宅の建設に対する文化財保護の対応が、今後は徐々に改善していくものと思われます。

教育普及事業では、歴史や埋蔵文化財に関する主催講座をはじめ、出前講座やイベントなどを実施し、二年間で6,500人を超える多くの方々に参加していただきました。特に、小学生を対象とする夏休み体験講座では、実施回数や募集定員を増やすなど講座の充実に力を入れた結果、延べ参加人数が大幅に増えるとともに、アンケートにおける満足度も80％を超えるなどの成果が見られました。また、平成26年度には、合併以来継続的に実施してきた真備町と船穂町における遺跡分布調査の詳細を、「倉敷市遺跡地図（真備・船穂地区）」としてとりまとめを行いました。当該地区の遺跡情報を広く市民の方に公開するとともに、開発事前協議等において大いに活用することで、更なる遺跡保護を図ってまいる所存です。

本書が、埋蔵文化財保護行政の資料として広く活用されますとともに、多くの方に当センター事業に対する理解と認識を深めていただくきっかけとなれば幸いに存じます。

最後になりましたが、各種事業の実施にあたりまして、ご指導ご協力を賜りました皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月31日

倉敷埋蔵文化財センター
館 長　鍵谷守秀

目　次

■平成25年度■

Ⅰ 組織 ……1
Ⅱ 事業の概要 ……1
Ⅲ 教育普及事業報告 ……5
Ⅳ 調査事業報告 ……7
上東遺跡確認調査報告 ……11
山の花遺跡確認調査報告 ……12
Ⅴ 寄贈図書一覧 ……13

■平成26年度■

Ⅰ 組織 ……23
Ⅱ 事業の概要 ……23
Ⅲ 教育普及事業報告 ……27
Ⅳ 調査事業報告 ……29
酒津山45号墳確認調査報告 ……33
奥田池西遺跡確認調査報告 ……36
島地北貝塚確認調査報告 ……37
庄城跡・上東遺跡確認調査概要 ……38
矢部遺跡確認調査報告 ……39
上東遺跡確認調査報告 ……40
玉島陶中地区試掘調査報告 ……41
Ⅴ 寄贈図書一覧 ……43

附編　矢部出土の竜形土製品 ……52

例　言

1. 本書は、倉敷埋蔵文化財センターが平成25～26年度にかけて行った埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。
2. 本書の執筆は、鍵谷守秀・小野雅明・藤原好二・内田智美・杉浦美保・那須玲子が分担し、調査事業報告についてはそれぞれ文責を記した。全体編集は藤原が行った。
3. 調査事業報告において、調査報告としているものについては本報告をもって正報告とする。
4. 調査地点位置図で使用した地形図は、倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり、その他の位置図には、倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものを使用した。
5. 本書に関する実測図・写真・遺物等は、全て倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

平成25（2013）年度

Ⅰ 組　織

埋蔵文化財センターは、文化財保護課の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。平成25年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなっている。

倉敷市教育委員会 ― 生涯学習部 ― 文化財保護課 ― **埋蔵文化財センター**

文化財保護課	課　長	福本　明
埋蔵文化財センター	館　長	鍵谷 守秀
〃	主　幹	小野 雅明
〃	主　任	藤原 好二
〃	副主任	綾野 早苗
〃	嘱託職員	内田 智美
〃	〃	杉浦 美保
〃	〃	那須 玲子

（職名等は平成26年3月31日現在）

Ⅱ 事業の概要

1　調査事業

(1) 事前協議　Fax 等による埋蔵文化財包蔵地照会は468件と前年度比で約36％の大幅増加である。このうち埋蔵文化財包蔵地に含まれる事案については、文化財保護法に基づく届出提出を指導した。開発指導要綱に基づく事前協議は1件であった。土砂採取事業に係わる協議であったが、埋蔵文化財包蔵地には含まれなかった。

(2) 発掘調査　平成25年度は確認調査2件、立会調査24件を実施した。上東遺跡と山の花遺跡において実施した確認調査は民間の宅地造成工事に伴うものであったが、少量の遺物が出土しただけであり、重要な遺構も確認されなかった。立会調査は、公共事業に伴うものが15件、民間の開発に伴うものが9件である。浄化槽設置に伴う立会調査を行った上東遺跡では中世のものと推定される遺構が検出された。

(3) 分布調査　12月から3月にかけて、真備・船穂地区に所在する遺跡の補足調査を行い、計28遺跡を踏査した。これらの遺跡については台帳を作成後、パソコンに入力した。また、別に児島地区の遺跡1か所も踏査した。

(4) 整理作業　報告書の刊行に向けて、新熊野山遺跡（平成22年度調査）から出土した中世土器類について、実測を実施した。

2　教育普及事業

(1) 主催講座等　春の遺跡見学会など、計16回の講座等を実施。延べ参加人数2,751人。

講座・イベント名	実施日	内　容	参加人数
春の遺跡見学会⑱	5/12（日）	赤磐市の遺跡を訪ねる	26人
古代の勾玉を作ろう	7/21（日）	高麗石を用いた勾玉作り	21人
簡単にできるらでん細工の小物入れ	7/28（日）	らでんによる小物入れの飾り付け	18人
ガラスでとんぼ玉を作ろう	7/31（水）	ガラスを用いたとんぼ玉作り	11人
縄文ペンダントを作ろう	8/4（日）	高麗石を用いたペンダント作り	9人
管玉のブレスレットを作ろう	8/7（水）	高麗石を用いたブレスレット作り	14人
古墳時代の冠を作ろう	8/11（日）	紙工作による冠作り	4人
ライフパークの集い	8/18（日）	ミニチュア土器等の発掘体験	1,932人
古代の土笛を作ろう	8/21（水）	はにわ粘土を用いた土笛作り	26人
秋の考古学講座「災害と歴史学」	10/27（日）	古代の災害	24人
〃	11/3（日）	東日本大震災被災地の今と遺跡	18人
大人のとんぼ玉講座	11/10（日）	ガラスを用いたとんぼ玉作り	9人
こどもまつり	2/9（日）	とんぼ玉ストラップ作り	595人
山城探訪	2/22（土）	下津井城跡探訪	31人
古代模様のランプシェード	2/23（日）	紙細工によるランプシェード作り	3人
ミニチュアの古代鏡を作ろう	3/2（日）	低融点合金を用いたミニチュア鏡作り	10人

(2) 出前講座等講師派遣　古代の土笛作り等、計10回の派遣。延べ参加人数395人。

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
古代の遺跡について	4/18（木）	倉敷市立赤崎小学校	81人
博物館学実習	5/22（水）	倉敷芸術科学大学	50人
古代の土笛を作ろう	7/25（木）	元気ほいだっ子クラブ	21人
〃	7/26（金）	倉敷市立赤崎小学校ＰＴＡ	72人
〃	8/8（木）	かわべっこ児童クラブ	31人
〃	8/27（火）	本栄寺	11人
玉島地方史講座館外研修	10/2（水）	玉島西公民館	62人
王墓の丘史跡公園案内	11/23（土）	庄学区愛育委員会	36人
博物館学実習	12/15（日）	くらしき作陽大学	13人
縄文体験ワークショップ	2/23（日）	笠岡市教育委員会	18人

(3) 報告書等の刊行

倉敷埋蔵文化財センター年報14
Ａ４判　本文44頁　600部　平成25年11月刊行

(4) 資料の貸出

	貸出期間	資料名	貸出先	使用目的
1	9月25日～12月20日	矢部堀越遺跡出土 特殊器台形埴輪　1点	岡山市 埋蔵文化財センター	平成25年度特別展 「特殊器台の世界」 にて展示
2	10月14日～1月15日	矢部堀越遺跡出土 特殊器台形埴輪　1点 矢部出土 竜形土製品　1点	大阪府立弥生文化博物館	平成25年度冬季特別展 「吉備と邪馬台国」 にて展示

(5) 写真等の掲載許可

	許可日	写真名	許可先	掲載物
1	4月24日	矢部出土 竜形土製品　1点	大阪府立弥生文化博物館	ＫＫベストセラーズ 『歴史人』6月号
2	6月4日	楯築遺跡　1点	(株) 山川出版社	高等学校用日本史副教材 『ビジュアル版日本史図録』
3	7月23日	寒田窯跡群4号出土 陶棺　1点	津山郷土博物館	特別展図録 『土の棺に眠る』
4	8月1日	矢部堀越遺跡出土 特殊器台形埴輪　1点 矢部出土 竜形土製品　1点	大阪府立弥生文化博物館	特別展図録 『吉備と邪馬台国』
5	8月6日	日畑出土古銭　1点	(株) 第一学習社	高等学校用世界史副教材 『ダイアローグ世界史図表』
6	8月9日	日畑出土古銭　1点	(株) 第一学習社	高等学校用世界史副教材 『グローバルワイド最新世界史図表』
7	9月4日	塩生遺跡検出 １号炉跡　2点	三菱化学 (株) 水島営業所	地域公報誌『もっと身近に ふれあい科学』第21号
8	10月25日	矢部出土 竜形土製品　1点	(株) 吉備人	岡将男著 『吉備・邪馬台国・東遷説』
9	11月6日	楯築遺跡遠景　1点	(株) 平凡社	太陽の地図帖023 『楽しい古墳案内』
10	12月12日	鯉喰神社弥生墳丘墓 測量図　1点	(株) 吉備人	岡将男著 『吉備・邪馬台国・東遷説』

3　利用者数

展示・講座等を含めた平成25年度の利用者数は下表のとおりである。総利用者数は13,646人で、昨年度比約15％の減となった。天候などの影響でライフパークの集い等のイベント参加者が減少したことが主な要因として考えられる。

《平成25年度月別利用者数》

月	大人	子ども	講座等	計	開館日数	1日平均利用者数
4	309	439	81	829	25	33
5	344	568	76	988	27	37
6	271	380		651	26	25
7	366	652	143	1,161	26	45
8	617	844	2,027	3,488	27	129
9	334	498		832	25	33
10	289	409	86	784	27	29
11	314	442	63	819	26	32
12	233	249	13	495	23	22
1	208	259		467	23	20
2	456	432	647	1,535	24	64
3	760	827	10	1,597	26	61
合計	4,501人	5,999人	3,146人	13,646人	305日	45人

4　寄贈資料

平成25年度には下記の考古資料等の寄付を受けた。

寄　贈　日	寄贈者名	資　料　名	数　量
7月11日	新谷郁世	酒津地区出土の考古資料	70点・1袋
10月1日	谷本 隆	児島地区出土の考古資料	整理用コンテナ2箱

Ⅲ 教育普及事業報告

1　春の遺跡見学会⑱
～赤磐市の遺跡を訪ねる～

日　時　平成25年5月12日（日）
講　師　高田恭一郎（赤磐市教育委員会）
　　小野雅明（倉敷埋蔵文化財センター）
対　象　一般
参加者　26人

古代備前国の中心地である赤磐市の遺跡をめぐる見学会を開催した。午前中は赤磐市教育委員会の高田恭一郎氏を講師に迎え、両宮山古墳、備前国分寺跡を見学した。両宮山古墳では、ミニチュアの立体模型を用いて古墳の特徴をわかりやすく解説された。二重の周濠の間にある中堤からの眺めは見どころのひとつで、内濠の水面に木々の生い茂った墳丘の影が映り、畿内大王墓に匹敵する威容を漂わせていた。続いて、西側にある備前国分寺跡に移動し、塔、金堂、講堂、僧房などの建物跡を見学。伽藍配置や寺院の変遷についてのお話の後、僧房跡の近くに置かれた巨大な礎石を前にして、「石材の産地は？」の質問に、付近の丘陵から運ばれてきた可能性が高いとの見解が示された。午後からは大型の横穴式石室で知られる岩田14号墳と鳥取上高塚古墳を見学。暗い石室内で懐中電灯を照らしながら石組みの状況などを観察した。最後に山陽郷土資料館を訪れ、職員の方から展示物や主要な市内遺跡についての解説をお聞きしたあと帰路につき、全行程を終了した。

2　夏休み体験講座
～簡単にできるらでん細工の小物入れ～

日　時　平成25年7月28日（日）
講　師　杉浦美保（倉敷埋蔵文化財センター）
対　象　小学4～6年生
参加者　18人

まず、透明なプラスチックケースの蓋に黒の油性ペンで絵を描き、黒く塗りつぶした部分に細かく砕いた薄い青貝を貼っていく。次に貝が剥がれないよう「らでんニス」を上から塗り、最後にらでんが見えやすくなるように、蓋の裏側に色画用紙をはめ込んで小物入れを完成させた。作業は単純で簡単なものだが、光の加減や見る方向によって輝きが変化する小物入れに、子どもたちは満足げな様子であった。

3　夏休み体験講座
～縄文ペンダントを作ろう～

日　時　平成25年8月4日（日）
講　師　那須玲子（倉敷埋蔵文化財センター）
対　象　小学4～6年生
参加者　9人

3cm角の扁平な高麗石をブロックなどで削って好みの形にし、マーカーで古代風の模様を描いたあと、模様と重ならない場所に錐で穴をあける。次に、棒やすりの先端で模様部分を彫り、その上から好きな色のマジックでなぞって色付けをする。耐水ペーパーで全体を滑らかにすると、彫った部分がカラーの線となって現れる。仕上げに全体を乾いた布で磨き、革ひもを穴に通せばオリジナルの縄文風ペンダントが完成する。

4　秋の考古学講座
～災害と歴史学～

日　時　平成25年10月27日・11月3日（日）
講　師　第1回　今津勝紀（岡山大学社会文化科学研究科）
「古代の災害」
第2回　大橋雅也（岡山県教育委員会）
「東日本大震災被災地の今と遺跡」
会　場　ライフパーク倉敷「中ホール」
対　象　一般
参加者　42人（延べ人数）

今回は、未来の災害に対する教訓として過去の災害について学ぶことを目的とした講座を実施した。

第1回は今津勝紀氏による講演で、歴史上の文献に残る災害の記録を丹念に拾い集め、古代の人々が地震などの災害に対してどのように行動し、対処したかをお話しいただいた。第2回は大橋雅也氏に、東日本大震災の被災地である宮城県で埋蔵文化財発掘調査に携わった経験と被災地における現在の様子について紹介いただいた。第1回では古代の文献に思っていた以上に災害が記録されていることや、人々の恐れる様が描写されていることに関心が集まった。

また、第2回では、当初、被災地では埋蔵文化財の調査は復興の妨げと考えられていたが、次第に自分たちの歴史を知る機会として好意的にとらえられるようになっていった様が解説され、受講生は興味深く聞いていた。

Ⅳ 調査事業報告

平成25年度調査一覧表

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区 別	調査期間	調査結果
1	西元浜貝塚	玉島黒崎	道路改良工事	立　会	13.04.04	遺物・遺構なし
2	小原南遺跡	玉島黒崎	墓地造成工事	〃	13.04.04	〃
3	黒崎貝塚	黒崎	道路補修工事	〃	13.04.05	〃
4	上東遺跡	上東	宅地造成工事	確　認	13.04.16	弥生土器細片
5	塩生遺跡	児島塩生	下水道管埋設工事	立　会	13.05.21	遺物・遺構なし
6	塩生遺跡	児島塩生	下水道管埋設工事	〃	13.05.21	〃
7	塩生遺跡	児島塩生	水道管埋設工事	〃	13.05.21	〃
8	塩生遺跡	児島塩生	水道管埋設工事	〃	13.05.28	〃
9	槇遺跡	真備町下二万	水道管埋設工事	〃	13.07.09	〃
10	上東中嶋遺跡	上東	水道管埋設工事	〃	13.07.10	〃
11	上東遺跡	上東	宅地造成工事	〃	13.07.19	弥生土器片
12	上東遺跡	上東	浄化槽埋設工事	〃	13.07.20	土師質土器細片
13	岩倉遺跡	日畑	水道管埋設工事	〃	13.09.10	遺物・遺構なし
14	山の花遺跡	藤戸町天城	宅地造成工事	確　認	13.09.18	須恵器細片
15	山地遺跡	山地	宅地造成工事	立　会	13.09.21	遺物・遺構なし
16	七島東貝塚	玉島阿賀崎	住宅建設工事	〃	13.09.26	〃
17	上東遺跡	上東	浄化槽埋設工事	〃	13.10.01	土壙・中世土器片
18	諸興寺跡	木見	水道管埋設工事	〃	13.10.30	遺物・遺構なし
19	宇野津遺跡	児島宇野津	水道管仮設工事	〃	13.10.30	〃
20	上東遺跡	上東	浄化槽埋設工事	〃	13.11.12	〃

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区 別	調査期間	調査結果
21	上東遺跡	上東	水道管埋設工事	立　会	14.01.25	遺物・遺構なし
22	亀山薬師貝塚	玉島道口	携帯電話基地局新設工事	〃	14.02.12	〃
23	宇野津遺跡	児島宇野津	下水道管埋設工事	〃	14.02.18	〃
24	新熊野山遺跡	林	住宅建設工事	〃	14.03.18	〃
25	戸地衛遺跡	真備町箭田	ため池改修工事	〃	14.03.19	〃
26	塩生遺跡	児島塩生	下水道管埋設工事	〃	14.03.19	〃

調査地点位置図（S=1/100,000）

上東（じょうとう）遺跡確認調査報告（一覧表 No.4）

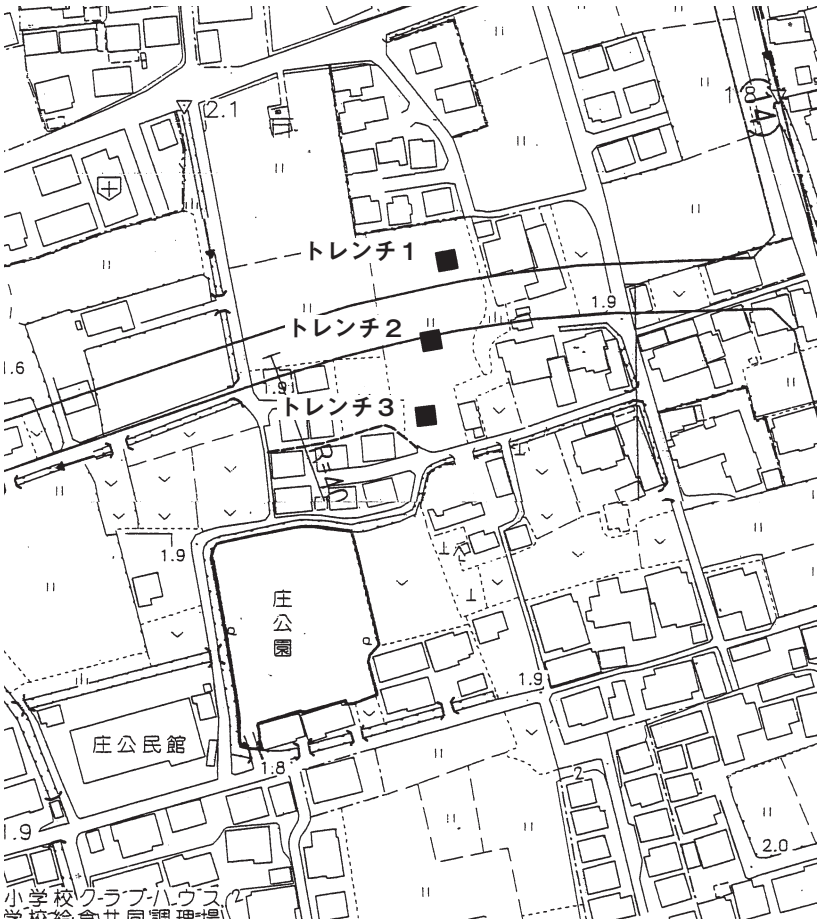
調査位置　上東702番4 外
調査原因　宅地造成工事　　**調査面積**　12㎡
調査期間　13.04.16　　**調査担当**　小野・藤原

遺跡の概要　上東遺跡は、足守川河口域に形成された沖積平野に立地する集落遺跡である。弥生時代後期を中心とし、中世までの遺構、遺物が確認されている。調査対象地は、倉敷市役所庄支所の北約200ｍの地点である。かつてこの周辺は一面に水田が広がっていたが、近年急速に宅地化が進み、新興住宅地と水田がモザイク状をなす景観に変わってきている。

調査の概要　確認調査は2×2ｍのトレンチを3か所設定し、土層の断面観察を中心に行った。トレンチ1では、水田耕作土・床土の下には褐灰色粘質土、黄灰色粘質土がみられ、弥生土器、中世土器の小片がわずかに含まれるが、混入したものと考えられる。その下には遺物を含まない灰黄色粘質土、暗灰黄色粘質土、灰色粘土が堆積している。遺構は検出されなかった。

トレンチ2では、水田耕作土の下には厚い黄灰色粘質土層がみられる。鉄分やマンガン粒の沈着状況から3層程度に分層が可能であるが、おおむね均質な層である。弥生土器、中世土器の小片がわずかに含まれる。遺構は検出されていない。

トレンチ3では、耕作土の下から現代の野壷が検出された。野壷穴は遺物を含まない堆積層（にぶい黄褐色土および灰色砂質土）を掘り込んでいるが、穴の直下部分にはグライ化した暗灰黄色土、灰色粘質土がみられた。これらは低湿地の堆積層と思われ、この場所は東に向かう傾斜地の落ち際と考えられる。野壷穴直下の灰色粘質土からは青磁椀、漆塗り木製椀の小片が出土した。時期は中世後半期以降と推定される。また、野壷が廃棄された後はゴミ焼き穴になっており、その埋土から現代遺物に混じって弥生土器、中世土器が少量出土した。以上のように、当該地では重要な遺構、遺物包含層は確認されなかったが、調査地の南端において微高地の落ち込みと考えられる地形を確認することができた。（小野）



トレンチ位置図（S=1/2,500）

山の花遺跡確認調査報告（一覧表 No.14）

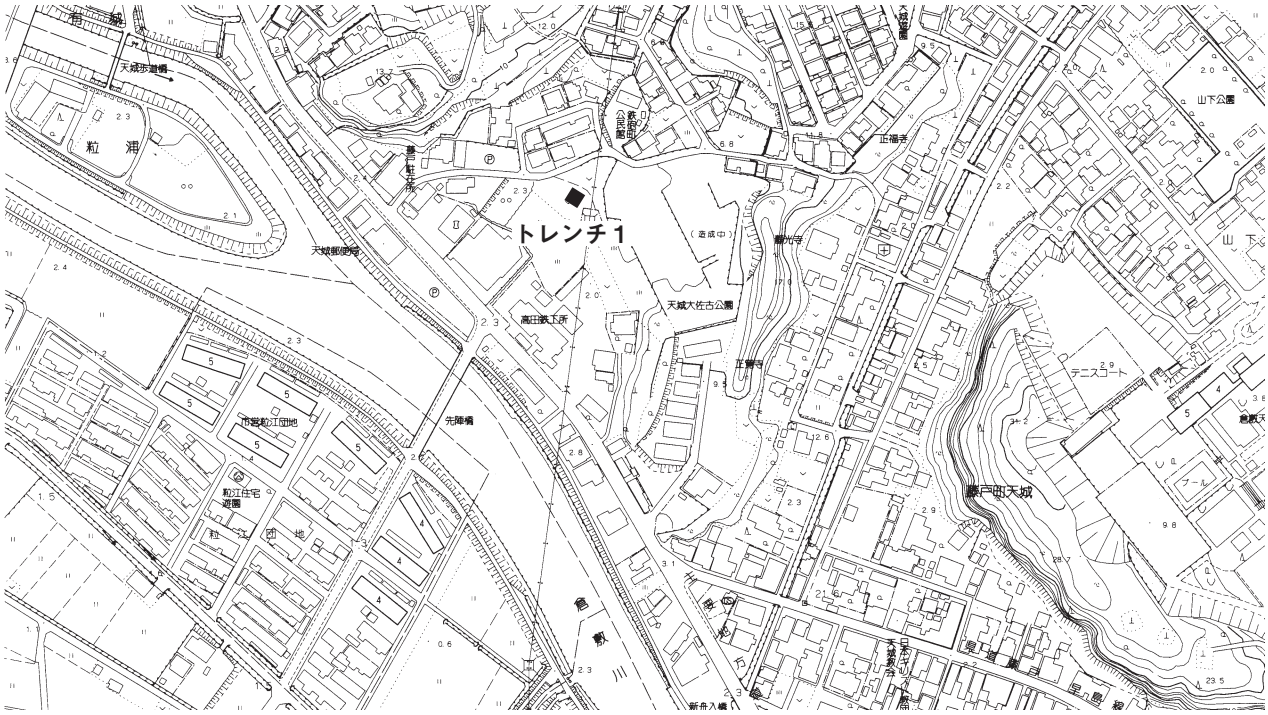
調査位置	藤戸町天城字大佐古648番1外		
調査原因	宅地造成工事	**調査面積**	4㎡
調査期間	13.09.18	**調査担当**	小野・藤原

遺跡の概要　山の花遺跡は、倉敷市街地の南東にある低丘陵の南裾に立地する。師楽式製塩土器、須恵器などが地表面で採集されており、古墳時代の散布地として周知される。このあたりの丘陵地は天城台団地をはじめとして広く宅地化が進んでいるが、近世の干潟干拓以前は、内海に浮かぶ小さな島々であった。山の花遺跡の周辺には、師楽式製塩土器が散布する遺跡が2か所ある。これらの遺跡の発掘調査例はなく、詳細は不明であるが、小規模ながら土器製塩を営む集落が存在していた可能性がある。

調査の概要　開発予定地は、畑地として利用された後に樹木の植栽や、廃土置き場として利用されている場所もあり、確認調査の実施にあたり作業条件の良い場所は一部の場所に限られている。そのため、2×2ｍの規模のトレンチを1か所設定して確認調査を実施した。トレンチ1では、耕作土の下には黄灰色砂質土、褐灰色細砂、暗灰黄色粗砂が堆積しており、地表下80cm（標高約0.8ｍ）で海砂がグライ化したと考えられる灰色粗砂が現れた。この状況は、砂浜状の旧地形に砂層が自然堆積したものと理解された。褐灰色細砂層、暗灰黄色粗砂層から磨耗の著しい土師器、須恵器などの土器細片がわずかに出土したが、遺構は検出されなかった。

以上のように、当該地の旧地形は海浜の状況を示しており、遺構および遺物包含層は確認されなかった。周辺地形の様子から、遺跡の中心は、調査地より標高の高い北側もしくは東側にあると考えられる。

（小野）



トレンチ位置図（S＝1/5,000）

Ⅴ 寄贈図書一覧（2013.4.1 ～ 2014.3.31）

北海道	
斜里町立知床博物館	オライネコタン3遺跡発掘調査報告書、道営畑総緊急発掘調査報告書、峰浜8線遺跡
岩手県	
北上市立埋蔵文化財センター	国見山廃寺跡、高前壇Ⅱ遺跡（2011年度）、北上市内試掘調査報告（2011年度）、下江釣子羽場遺跡（2011年度）、館Ⅳ遺跡（2005・2006年度）、北上市埋蔵文化財年報（2011年度）
宮城県	
多賀城市埋蔵文化財調査センター	多賀城市内の遺跡2- 平成24年度ほか発掘調査報告書 -、多賀城市内の遺跡1- 平成22年度ほか発掘調査報告書 -
山形県	
（公財）山形県埋蔵文化財センター	埋文やまがた第51号・第52号
東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科	置賜地域の終末期古墳6、歴史遺産研究 No.8/2013
福島県	
（公財）郡山市文化・学び振興公社	大安場史跡公園ガイドブック
茨城県	
土浦市立博物館	土浦市立博物館紀要 第23号
上高津貝塚ふるさと歴史の広場	古代のみち、古代の火葬と祈り、上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第18号
筑波大学歴史・人類学専攻	筑波大学 先史学・考古学研究第24号
（公財）茨城県教育財団	埋蔵文化財 年報32
栃木県	
佐野市教育委員会	唐沢山城跡、佐野市の文化財保護
埼玉県	
吉見町埋蔵文化財センター	町内遺跡7
千葉県	
千葉市教育委員会	埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書 - 平成21年度 - ～ - 平成24年度 -
長柄町教育委員会	史跡長柄横穴群保存整備報告書
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館研究報告第178集別冊・第178集～第180集・第182集、国立歴史民俗博物館年報8・9、国立歴史民俗博物館三十年史
宮内庁書陵部	書陵部紀要第64号、書陵部紀要第64号（陵墓篇）
東京都	
早稲田大学考古学会	古代第131号
国学院大学文学部考古学研究室	穂高古墳群2012年度発掘調査報告書
明治大学博物館	明治大学博物館年報 2012年度
青山学院大学文学部史学研究室	青山史学第三十一号
明治大学校地内遺跡調査団	下原・富士見町遺跡Ⅰ、下原・富士見町遺跡Ⅱ、富士見町遺跡1、明治大学和泉校地遺跡Ⅱ、年報6～8
神奈川県	
横須賀市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査概報集ＸＸほか
富山県	
魚津市教育委員会	魚津市立博物館紀要第8号・第9号
小矢部市教育委員会	平成24年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報
石川県	
小松市埋蔵文化財センター	小松市内遺跡発掘調査報告書Ⅸ
福井県	
福井市教育委員会	重立山古墳群、別所遺跡、波着寺跡、福井城跡Ⅲ・Ⅳ、平成20年度年報、平成21年度年報、平成22年度年報
小浜市教育委員会	阿納塩浜遺跡発掘調査報告書、高塚遺跡発掘調査報告書

長野県	
井戸尻考古館	札沢遺跡・中道尾根遺跡
長野県立歴史館	長野県立歴史館たより vol.75～ vol.78
岐阜県	
各務原市埋蔵文化財調査センター	かかみがはらの埋文第21号・第22号、炉畑遺跡出土品図録
愛知県	
新城市教育委員会	新城城跡発掘調査報告書Ⅱ、武田勝頼戦地本陣跡発掘調査報告書
南山大学人類学博物館	南山大学人類学博物館紀要第31号
名古屋市見晴台考古資料館	埋蔵文化財調査報告書69～70、瑞穂遺跡発掘調査報告書、堅三蔵通遺跡、富士見町遺跡、正木町遺跡、熱田 - C 遺跡、名古屋市見晴台考古資料館研究紀要第13号・第15号、名古屋市見晴台考古資料館年報30
豊田市郷土資料館	豊田市郷土資料館だより No.84～ No.87、平成23年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書、寺部遺跡Ⅱ、江古山遺跡、寺部遺跡Ⅲ
名古屋大学考古学研究室	名古屋大学文学部研究論集176
滋賀県	
守山市立埋蔵文化財センター	下之郷遺跡確認調査報告書Ⅶ、平成22・23年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告書
（公財）滋賀県文化財保護協会	おうみ文化財通信 Vol.15～ Vol.19、内湖とその暮らし
（公財）栗東市体育協会	蜂屋・手原遺跡 平成22年度1次調査、下鈎遺跡発掘調査報告書 平成23年度1次調査、下鈎遺跡発掘調査報告書 平成23年度2次調査、辻遺跡発掘調査報告書 平成23年度1次調査、林遺跡発掘調査報告書 平成23年度2次調査、綣遺跡発掘調査報告書 平成23年度1次調査、辻遺跡発掘調査報告書 平成24年度1次調査、栗東市埋蔵文化財調査報告2011（平成23）年度年報、登場！大型建物 - 近江の弥生集落 -、土馬、有茎尖頭器、技術者の系譜 古代近江の金属生産、はっくつ2012- 栗東市話題の発掘調査 -、はっくつ2013- 栗東市話題の発掘調査 -
滋賀県教育委員会	天神畑遺跡・上御殿遺跡、宇佐山古墳群、浄土屋敷遺跡Ⅱ、粟津第3貝塚2・自然流路2、膳所城遺跡、下羽田遺跡、蛭子田遺跡1、蛭子田遺跡2、上沢遺跡・浄土屋敷遺跡Ⅲ、相谷熊原遺跡Ⅰ、清滝寺遺跡・能仁寺遺跡Ⅱ
大津市教育委員会	大津城跡発掘調査報告書、穴太遺跡（横枕地区）発掘調査報告書、惣山遺跡発掘調査報告書、南滋賀遺跡発掘調査報告書Ⅳ・Ⅴ、惣山遺跡・近江国府跡発掘調査報告書、平津池ノ下遺跡発掘調査報告書Ⅱ、近江国府跡・管池遺跡発掘調査報告書、石山国分遺跡発掘調査報告書Ⅱ、近江国府跡・惣山遺跡発掘調査報告書
米原市教育委員会	佐加太第37号・第38号
野洲市教育委員会	平成24年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書、平成25年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書、平成25年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書2、平成25年度野洲市内遺跡発掘調査年報
高島市教育委員会	国指定記念講演会 名勝朽木池の沢庭園 - 記録集 -、堀川遺跡 - 西浦586番地他の調査 -、田中古墳群分布測量調査報告書、高島市内遺跡調査報告書 -平成24年度 -
滋賀県立安土城考古博物館	おおてみち第83号～第87号
滋賀県立大学人間文化学部	人間文化34号
京都府	
（財）京都市埋蔵文化財研究所	知恩院境内（京都市指定名勝 知恩院方丈庭園）、平安京右京二条三坊十五・十六町跡、常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡、法住寺跡跡、平安京左京北辺四坊一町跡・公家町遺跡、平安京右京四条一坊九町跡・壬生遺跡、平安京造酒司跡・鳳瑞遺跡、史跡・名勝 嵐山、平安京左京五条三坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡、福西古墳群（4号墳）、史跡・名勝 嵐山、平安京右京北辺二坊八町跡、伏見城跡、平安京左京一条三坊十町跡・旧二条城跡、寺町旧域、史跡・名勝 嵐山
（公財）京都市埋蔵文化財研究所	平安京右京二条三坊十五町跡、植物園北遺跡、平安京右京四条三坊十一町跡、植物園北遺跡、長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡、平安京右京三条一坊六・七町跡 - 西三条第（百花亭）跡 -

(公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第120号～第122号
京都府教育庁	京都府埋蔵文化財調査報告書 (平成24年度)
京都市文化芸術都市推進室	京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度、京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度、京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度
南丹市立文化博物館	歴史を伝える資料たち、南丹市立文化博物館だより第9号
京都大学考古学研究室	一乗寺向畑町遺跡出土 縄文時代資料 - 資料編 -
京都橘大学	京都橘大学 文化財調査報告 2012
大阪府	
高槻市立埋蔵文化財調査センター	高槻市文化財年報 平成23年度、嶋上遺跡群37
泉南市埋蔵文化財センター	泉南市遺跡群発掘調査報告書ＸＸＸ
堺市教育委員会	四ッ池遺跡 その6 昭和51年度発掘調査報告書、東大寺と土塔 - 行基を支えた民衆 -、大仙西町遺跡 (DSW-3) 発掘調査概要報告、陶邑窯跡群光明池地区 (SMKM-4) 発掘調査概要報告、平成23・24年度市内遺跡発掘・立会調査概要報告、堺環濠都市遺跡発掘調査概要報告 -SKT1077地点・寺地町東一丁 -、檜尾中山 (HON-4) 遺跡発掘調査概要報告、百舌鳥古墳群の調査7、登録有形文化財清学院保存修理工事報告書、平成24年度国庫補助事業発掘調査報告書
(公財) 枚方市文化財研究調査会	中宮ドンバ遺跡、禁野本町遺跡Ⅳ、枚方市文化財年報34 (2012年度分)
(公財) 八尾市文化財調査研究会	公益財団法人 八尾市文化財調査研究会設立30周年記念誌、平成24年度 (公財) 八尾市文化財調査研究会事業報告
羽曳野市教育委員会	古市遺跡群ＸＸＸⅣ・ＸＸＸＶ、羽曳野市文化財分布図2012、羽曳野市内遺跡調査報告書 - 平成21年度 -・- 平成22年度 -
富田林市教育委員会	平成24年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書
泉佐野市教育委員会	平成24年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要、諸目遺跡、泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第69号～第71号
交野市教育委員会	平成24年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
池田市教育委員会	池田市埋蔵文化財発掘調査概報 2012年度
吹田市教育委員会	旧中西家住宅庭園調査報告書、吹田市埋蔵文化財発掘調査報告集2、平成24 (2012) 年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
茨木市教育委員会	平成21年度発掘調査概報、平成24年度発掘調査概報
河内長野市教育委員会	くろまろ館 (ふるさと歴史学習館) 常設展示のご案内、河内長野市埋蔵文化財調査報告書31
大阪府立弥生文化博物館	弥生文化博物館要覧 - 平成23年度 -、歴史人 No.33、吉備と邪馬台国 - 霊威の継承 -
大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立近つ飛鳥博物館 館報16、百舌鳥・古市古墳群出現前夜、考古学からみた推古朝、アスカディア・古墳の森 vol.39、遺跡が語る墳墓の歴史、考古学からみた日本の古代国家と古代文化、歴史発掘 おおさか2013 - 大阪府発掘調査最新情報 -
吹田市立博物館	博物館だより No.54・No.56、交通の20世紀
大阪府立狭山池博物館	近世狭山池の水利変革
大阪歴史博物館	なにわ歴博カレンダー No.47、大阪歴史博物館年報 平成24年度
大阪大学考古学研究室	野中古墳と「倭の五王」の時代
大阪大学埋蔵文化財調査室	大阪大学埋蔵文化財調査室年報3
大阪大谷大学	工房の実践プラクティスを問う、文化財研究第13号、志学台考古第13号
兵庫県	
神戸市教育委員会	祇園遺跡第15次発掘調査報告書、出合遺跡第45・46次発掘調査報告書、若松町東遺跡第1・2・3・4・5・6次発掘調査報告書、古代の技術を復原 - ものづくりのあれこれ -、清盛の生きた時代、祇園遺跡第14次発掘調査報告書、平成22年度 神戸市埋蔵文化財年報、神戸市埋蔵文化財分布図 平成25年度版、神戸の古墳Ⅰ 前方後円墳、昭和のくらし・昔のくらし その7、19世紀日本の国際環境と和田岬砲台

伊丹市教育委員会	有岡城跡発掘調査報告書ＸⅦ
加西市教育委員会	玉丘古墳群Ⅳ、加西・鶉野飛行場跡（旧姫路海軍航空隊基地）
赤穂市教育委員会	有年原・クルミ遺跡発掘調査報告書２
尼崎市教育委員会	尼崎市内遺跡 発掘調査等、尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成19年度・20年度（1）
姫路市立城郭研究室	城郭研究室年報 vol.23
加東市教育委員会	加東市遺跡分布地図～ 2012年度版～、加東市内にみる風土記の世界
川西市教育委員会	平成23年度川西市発掘調査報告
三田市役所	対中遺跡発掘調査報告書 - 対中遺跡第７次調査 -
上郡町教育委員会	失われた『播磨国風土記』～『風土記』のころのかみごおり～、中山古墳群
太子町教育委員会	平成24年度埋蔵文化財調査年報
佐用町教育委員会	昭和61年度埋蔵文化財調査年報、平成23年度埋蔵文化財調査年報
多可町教育委員会	奥中・三内遺跡、極楽寺遺跡Ⅱ、豊部・森内谷遺跡、奥豊部古墳群
神戸市立博物館	研究紀要第29号
赤穂市立歴史博物館	忠臣蔵の本尽くし
兵庫県立考古博物館	雲部車塚古墳 車塚の坪遺跡、塚口城跡、高柳ナベ遺跡、高町遺跡、津門大箇町遺跡、小河江窯跡、兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書Ⅱ、寺地古墳 寺地遺跡 寺地窯跡群、市之郷遺跡Ⅴ、西神ニュータウン No.62遺跡、神谷戒現行遺跡、三釈迦山北麓遺跡群、宮ノ谷古墳群Ⅱ、南町遺跡、大崎・鳥居元遺跡、大池ノ南遺跡、藤坂馬場遺跡、米里山際古墳、芝添遺跡、高松３号墳、平成22年度埋蔵文化財調査年報、兵庫県立考古博物館ＮＥＷＳ vol.12
（公財）兵庫県まちづくり技術センター	ひょうごの遺跡第85号～第88号
播磨町郷土資料館	播磨町郷土資料館 館報24
大手前大学史学研究所	播磨六箇寺の研究Ⅰ、兵庫県関係古代木簡集成
奈良県	
桜井市立埋蔵文化財センター	桜井市纒向学研究センター年報第０号、平成23年度国庫補助による発掘調査報告書、50㎝下の桜井、金属利用の歴史～桜井市内出土遺物から～、HASHIHAKA - 始まりの前方後円墳 -、桜井市内遺跡発掘調査報告書 -2011年度 -、山の辺の万葉歌碑をたずねて、平成24年度国庫補助による発掘調査報告書
奈良文化財研究所	遺跡情報交換標準の研究 第３版、埋蔵文化財ニュース No.150～ No.153
橿原市教育委員会	平成20年度橿原市文化財調査年報、平成21年度橿原市文化財調査年報、平成22年度橿原市文化財調査年報、藤原京跡Ⅱ、東坊城遺跡
宇陀市教育委員会	宇陀市内遺跡発掘調査概要報告書2011年度、史跡宇陀松山城跡第７次～ 10次発掘調査報告書
田原本町教育委員会	田原本町文化財調査年報21、たわらもと2013発掘速報展、保津・宮古遺跡 第１次発掘調査報告書、弥生の王都 唐古・鍵、弥生遺産～唐古・鍵遺跡の土器
斑鳩町教育委員会	斑鳩町内遺跡発掘調査概報 平成14年度・平成15年度・平成17年度、史跡中宮寺跡発掘調査報告書、斑鳩文化財センター年報第１号～第２号、飛鳥時代の斑鳩と小田原、斑鳩藤ノ木古墳の馬具展、国宝藤ノ木古墳出土品里帰り展、第２回国宝藤ノ木古墳出土品里帰り展、斑鳩文化財センター - こども展示図録 -、斑鳩の古墳展、斑鳩文化財センター - 常設展示図録 -
帝塚山大学考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所研究報告ＸＶ
桜井市纒向学研究センター	纒向考古学通信 Vol.5、纒向学研究第１号、纒向遺跡発掘調査概要報告書
（公財）元興寺文化財研究所	元興寺文化財研究所研究報告2012
天理大学附属天理参考館	天理参考館報第26号
天理大学考古学・民俗学研究室	古事 第17冊
奈良大学文学部文化財学科	文化財学報第三十一集 酒井龍一先生退職記念論集
和歌山県	
（公財）和歌山県文化財センター	緊急雇用対策特例基金事業に係る発掘調査資料整理概報、蛭田坪遺跡、片山遺跡、和田Ⅱ遺跡、井辺遺跡、田屋遺跡、公益財団法人和歌山県文化財センター年報2012、立野遺跡、地宝のひびき - 和歌山県内文化財調査報告会 - 資料集、歩

	いて知るきのくに歴史探訪 竈山神社と周辺の遺跡を巡る、公開シンポジウム 紀ノ川北岸の古墳文化 - 初期須恵器・埴輪・陶棺からみた地域の歴史 -
有田川町教育委員会	田殿尾中遺跡発掘調査報告書
鳥取県	
(財) 鳥取県教育文化財団	金廻家ノ上ノ内遺跡・越敷山古墳群 (金廻地区)、坂長第7遺跡2・坂長第8遺跡3
(公財) 鳥取市文化財団	卯垣ギットリ遺跡、松原10号墳、佐貫山ノ跡遺跡
鳥取県埋蔵文化財センター	古代・中世・近世 社会と暮らし、青谷上寺地遺跡の木製農工具・漁撈具、青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報2012、緑土塗布の木製盾復原製作、青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告9　木製農工具・漁撈具、日本海を行き交う弥生の宝石、赤坂小丸山遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡、下甲退休原第1遺跡、殿河内上ノ段大ブケ遺跡、西坪中中畝遺跡
鳥取県教育委員会	本高下ノ谷遺跡、本高弓ノ木遺跡 (5区) Ⅰ、松原田中遺跡Ⅰ、高住平田遺跡Ⅱ、本高弓ノ木遺跡 (4区)、本高弓ノ木遺跡 (5区) Ⅱ【遺物 (木器) 編】、高住牛輪谷遺跡Ⅰ
大山町教育委員会	八重第4遺跡、町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ・Ⅴ、高田第10遺跡
八頭町教育委員会	奈免羅・西の前遺跡Ⅴ、郡家西向田遺跡発掘調査報告書、平成20・21年度町内遺跡発掘調査報告書、平成21・22年度町内遺跡発掘調査報告書、平成22・23年度町内遺跡発掘調査報告書、平成23・24年度町内遺跡発掘調査報告書、山田遺跡
日南町教育委員会	日南町内遺跡発掘調査報告書Ⅷ、大菅中倉遺跡発掘調査報告書、宮内蛇巻遺跡発掘調査報告書、日南町内遺跡発掘調査報告書Ⅶ
鳥取県立むきばんだ史跡公園	妻木晩田遺跡発掘調査研究年報2012・2013
島根県	
島根県埋蔵文化財調査センター	史跡出雲国府跡 -9総括編 -、庵寺古墳群Ⅱ・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡、埋蔵文化財調査センター年報22、市井深田遺跡 荒槇遺跡 鈴見B遺跡1区
島根県古代文化センター	木製品から見た古代のくらし
(公財) 松江市スポーツ振興財団	城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書2
益田市教育委員会	中須東原遺跡
浜田市教育委員会	島根県浜田市遺跡地図Ⅴ (旭自治区)・浜田市治和町鰐石試掘調査
出雲市役所	板津焼山遺跡、神門寺付近遺跡Ⅲ・高西遺跡、赤塚台場跡、出雲弥生の森博物館研究紀要第3集、平成24年度出雲市文化財調査報告書
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	八雲立つ風土記の丘 No.213・No.214
島根大学ミュージアム	島根大学ミュージアム年報 平成23・24年度、SHIMANEDAI MUSE Vol.4
岡山県	
岡山県古代吉備文化財センター	所報吉備第55号・第56号、百間川原尾島遺跡8 百間川沢田遺跡6、辺谷製鉄遺跡 辺谷中田遺跡 成ル古屋遺跡 水口遺跡 谷山遺跡 ほか、両宮山古墳とその周辺
津山弥生の里文化財センター	津山弥生の里第20号、院庄構城跡、津山城だより No.17
岡山市埋蔵文化財センター	岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第5号、岡山市埋蔵文化財センター年報12、同ヶ谷遺跡、湊茶臼山古墳、里前遺跡、彦崎貝塚4、東山 (市道) 遺跡、特殊器台の世界
井原市文化財センター	井原市文化財センター「古代まほろば館」年報4
岡山県教育委員会	発掘調査のてびき - 各種遺跡調査編 -、埋蔵文化財関係統計資料、岡山県埋蔵文化財報告43
備前市教育委員会	備前窯詳細分布調査報告書、山崎窯南遺跡、商う - 歴史資料から見るやきものの値段 -
笠岡市教育委員会	くろがねのよろい - 新山の古墳から出土した短甲 -、神島のホフマン窯
総社市教育委員会	総社市埋蔵文化財調査年報22 (平成23年度)
瀬戸内市教育委員会	畑中遺跡
勝央町教育委員会	勝央町内遺跡試掘確認調査報告書 (平成21年度～平成23年度)
津山郷土博物館	津博 No.75～ No.79、津山松平藩町奉行日記 二十一、平成24年度津山郷土博物館年報、土の棺に眠る～美作の陶棺～

倉敷市立自然史博物館	倉敷市立自然史博物館報22（平成24年度）
岡山県立美術館	美術館ニュース No.101～No.103
岡山シティミュージアム	岡山びと 第7号
岡山大学文学部考古学研究室	二本松上郷後峯遺跡発掘調査報告書、井後草里遺跡第3次発掘調査報告書、井後草里遺跡第4次・第5次発掘調査報告書
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 No.50、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2012、鹿田遺跡8 - 第14次調査 -
岡山理科大学 図書館	岡山理科大学紀要第48号Ａ自然科学、岡山理科大学紀要第48号Ｂ人文・社会科学、自然科学研究所研究報告第38号、岡山理科大学紀要第49号Ａ自然科学、岡山理科大学紀要第49号Ｂ人文・社会科学
岡山理科大学 地理・考古学研究室	半田山地理考古第1号、佐山新池窯跡群第4次発掘調査概報・佐山東山窯跡群第1次発掘調査概報、高梁川を科学する Part2
くらしき作陽大学	くらしき作陽大学博物館実習報告第7号
岡山市立オリエント美術館	岡山市立オリエント美術館研究紀要27
倉敷市文書館（アーカイブス）研究会	倉敷の歴史第23号
倉敷市	名勝下津井鷲羽山保存管理計画書
岡山県遺跡保護調査団事務局	調査団ニュース41号・42号
高梁川流域連盟	高梁川71
広島県	
（財）広島県教育事業団	ひろしまの遺跡第109号～第111号、国道313号道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）、中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（23）～（25）・（27）・（28）・小迫遺跡・岡野原遺跡
（公財）広島県教育事業団	ひろしまの遺跡第110号・第111号、中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（32）・（33）・（35）～（38）、平成24年度ひろしまの遺跡を語る 中国山地の旧石器文化を考える 記録集、埋蔵文化財調査室年報10（平成24年度）埋蔵文化財調査室開設10年の歩み
広島県教育委員会	平成23年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書
府中市教育委員会	府中市文化財紀要1、府中市内遺跡16・17
三次市教育委員会	深茅遺跡・岩脇墳墓群
福山市教育委員会	福山市内遺跡発掘調査概要Ⅶ
庄原市教育委員会	庄原市文化財だより 第2号、庄原市文化財ガイドブック - 民俗文化財・無形文化財編 -
尾道市教育委員会	尾道の歴史と遺跡 近世編
広島県立歴史博物館	広島県立歴史博物館ニュース第94号～第97号
広島県立歴史民俗資料館	中国山地の原始・古代～その時、山は輝いていた～
広島大学文学部考古学研究室	帝釈峡遺跡群発掘調査室年報ＸＸⅦ
広島大学総合博物館	広島大学埋蔵文化財調査研究紀要 第4号
山口県	
山口県埋蔵文化財センター	陶けん第26号、東禅寺・黒山遺跡Ⅶ、延行条理遺跡（秋根上町1地区2A 地区）、表面遺跡、開明遺跡・尻尾遺跡
下関市立考古博物館	研究紀要第17号・第18号、下関市立考古博物館年報18、くらしとまつりの家
山口大学埋蔵文化財資料館	見島ジーコンボ古墳群 第152・153・155・156号墳出土資料調査報告、山口大学埋蔵文化財資料館年報 - 平成21年度 -
徳島県	
徳島市教育委員会	矢野の古墳発掘調査報告書、史跡渋野丸山古墳保存管理計画書、徳島市埋蔵文化財発掘調査概要22
香川県	
香川県埋蔵文化財センター	川津六反地遺跡・川津昭和遺跡、上東原遺跡・大下遺跡、旧練兵場遺跡Ⅳ、香川県埋蔵文化財センター年報 平成24年度、平成23・24年度 香川県内遺跡発掘調査 讃岐国府跡発掘調査概報、讃岐国府跡探索事業 平成25年度 新宮古墳・醍

	醐3号墳の確認調査、西末則遺跡Ⅳ、研究紀要Ⅸ
香川県教育委員会	特別名勝 栗林公園、香川県文化財年報 平成23年度、埋蔵文化財試掘調査報告ＸＸＶ
高松市教育委員会	高松市内遺跡発掘調査概報 - 平成24年度国庫補助事業 -、奥の坊遺跡群ＸⅠ
丸亀市教育委員会	文化財少女 まる☆プリ、丸亀市内遺跡発掘調査報告書第7集・第8集、田村池の下遺跡
さぬき市教育委員会	津田古墳群調査報告書
三豊市教育委員会	紫雲出山遺跡・金鳥池窯跡、宗吉かわらの里展示館年報2
香川県政策部	四国八十八ヶ所霊場第八十一番札所 白峯寺調査報告書、讃岐遍路道 曼荼羅寺道調査報告書
香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアムニュース vol.21 ～ vol.24
愛媛県	
（公財）愛媛県埋蔵文化財センター	北井門遺跡3次調査、辻堂遺跡、今若遺跡2次、宮ノ内遺跡3次、古谷犬山谷古墳、愛比売 平成24年度年報
（公財）松山市文化・スポーツ振興財団	松山市埋蔵文化財調査年報25、釜ノ口遺跡Ⅲ、道後城北遺跡群Ⅲ、三味線山古墳・船ヶ谷向山古墳
今治市教育委員会	史跡能島城跡 平成22・23年度郭Ⅱ（第2・3次）調査報告書、市内遺跡試掘確認調査報告書（平成23年度 市公共事業に伴う調査）、市内遺跡試掘確認調査報告書（平成23年度 個人民間開発に伴う調査）、小泉行留遺跡 小泉アツコ遺跡 - 第4次調査 - 小泉アツコ遺跡 - 第5次調査 - ほか、新谷横枕遺跡 高橋中瀬遺跡、高橋上谷1号墳（高橋上谷墳丘墓）
松山市教育委員会	樽味高木遺跡10次調査・樽味四反遺跡10調査、久米才歩行遺跡6次調査・南久米斎院遺跡1次・2次調査、久米高畑遺跡36次調査、北井門遺跡5次調査、小坂七ノ坪遺跡 -3次・4次調査 -、来住廃寺、松山市内遺跡詳細分布調査 市有公園試掘調査・北条地区（善応寺）踏査、中村松田遺跡 -4次調査 -
愛媛大学埋蔵文化財調査室	樽味遺跡Ⅴ、愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 -2011年度 -
高知県	
（公財）高知県文化財団	祈年遺跡Ⅳ、坪井遺跡、徳王子大崎遺跡、城ヶ谷山遺跡・鎌田遺跡・貢山城跡、田村西遺跡、高知県埋蔵文化財センター年報第22号
高知市教育委員会	史跡高知城跡・高知跡
高知県立歴史民俗資料館	高知県立歴史民俗資料館年報 No.21、岡豊風日第81号～第84号
高知人文社会科学会	高知人文社会科学研究 創刊号
高知大学人文学部考古学研究室	定林寺芝の前1号墳測量調査報告書
福岡県	
福岡市埋蔵文化財センター	福岡市埋蔵文化財センター年報第32号
小郡市埋蔵文化財調査センター	小郡博多道遺跡2、小板井蓮輪遺跡3、福童法司遺跡、三沢宮ノ前遺跡3、津古永前遺跡、埋蔵文化財調査報告書5、上岩田遺跡13
久留米市埋蔵文化財センター	久留米市文化財保護課年報 vol.8、久留米市埋蔵文化財調査集報ＸⅣ、筑後国府跡 - 平成24年度発掘調査報告 -、平成24年度久留米市内遺跡群、京隈侍屋敷遺跡 - 第24・25次調査 -、玉田遺跡 - 第2次調査 -、稲数遺跡 - 第1次発掘調査報告 -、久留米城下町遺跡（原古賀町）- 第21次発掘調査報告 -、久留米城外郭遺跡 - 第119次発掘調査報告 -、筑後国府跡 - 第254次発掘調査報告 -、横道遺跡 - 第12次発掘調査報告 -、久留米城下町遺跡（旧細工町）- 第20次発掘調査報告 -、久留米城外郭遺跡 - 第18次発掘調査報告 -、京隈侍屋敷遺跡 - 第20・22次調査 -、二本木遺跡 - 第29次発掘調査報告 -、櫛原侍屋敷遺跡 - 第16次発掘調査報告 -、筑後国府跡 - 第247次発掘調査報告 -
福岡市教育委員会	福岡市埋蔵文化財年報 vol.26、長峰谷口Ｂ1、南八幡遺跡10、女原瓦窯跡、姪浜遺跡4、元岡・桑原遺跡群22、立花寺6、吉武遺跡群23、史跡鴻臚館跡、脇山Ⅶ、博多144・145、原遺跡16～18、比恵65、桧原遺跡2、松木田3、内野熊山1、今宿五郎江12～15、井相田Ｃ遺跡8・9、有田・小田部51・52、那珂64～67、中

	ノ原遺跡、徳永Ａ遺跡5、中南部11、山王遺跡6、香椎遺跡2、大塚遺跡6、内野遺跡2、徳永Ｂ１
北九州市教育委員会	篠崎古墳群、下原遺跡、京町遺跡2、畠山遺跡Ｆ・Ｇ地点、北方遺跡第12次調査
大野城市教育委員会	森園遺跡、乙金地区遺跡群6･7、後原遺跡3、石勺遺跡6、雉子ヶ尾遺跡、瑞穂遺跡3･横峰遺跡Ⅰ・ハザコ遺跡
筑紫野市教育委員会	峠山遺跡、原田地区遺跡群３- 弥生・古墳時代編 -
春日市教育委員会	須玖黒田遺跡 -1・2次調査 -、駿河Ｂ遺跡、整理池遺跡
豊前市教育委員会	久路土幢遺跡
うきは市教育委員会	福永高木遺跡2、長栖地区遺跡群
糸島市教育委員会	井田原開古墳、吉森遺跡Ⅱ、実田3号墳、早田遺跡、木舟・三本松遺跡Ⅲ、大坪遺跡Ⅱ、曲り田周辺遺跡Ⅳ、潤遺跡群Ⅲ、三雲・井原遺跡Ⅶ、潤遺跡群Ⅱ、深江・中道遺跡Ⅰ、上深江・小西遺跡Ⅰ、萩の原古墳群Ⅱ、志摩の歴史と文化財、糸島平家物語、伊都国歴史博物館年報７ - 平成22年度 -、伊都国歴史博物館紀要第7号、吉森遺跡Ⅲ、三雲・井原遺跡Ⅷ
（公財）北九州市芸術文化振興財団	末金遺跡、城野遺跡9、堺町遺跡3、小原遺跡、城野遺跡6～8、石田・原遺跡第7地点、大手町遺跡第10地点、研究紀要 - 第27号 -、黄金塚遺跡、穴生古屋敷遺跡第3次調査、重住遺跡第3地点、大門遺跡第6地点、埋蔵文化財調査室年報29
筑前町教育委員会	柿ノ上遺跡・高田駿遺跡
遠賀町教育委員会	遠賀町内遺跡詳細分布調査報告書、鬼津横穴墓群Ⅱ
苅田町教育委員会	百合ヶ丘古墳群
北九州市立自然史・歴史博物館	北九州市立自然史・歴史博物館研究報告Ｂ類歴史第10号
九州歴史資料館	九州歴史資料館年報 - 平成24年度 -、九歴だより No.37・No.38、九州歴史資料館研究論集38
佐賀県	
佐賀県教育委員会	佐賀県の中近世城館 第2集 各説編1、東千布遺跡8区、田代遺跡 -1･4区の調査 -、村徳永遺跡 -21区の調査 -、尼寺一本松遺跡 -7区の調査 -、大日遺跡 -3区の調査 -、松原遺跡 -3・4区の調査 -、徳富本村遺跡 -3区の調査 -、佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 -2010年度 -、植物利用の源流をさぐる - 湿地に残されたもの -
唐津市教育委員会	唐津城跡本丸1、宇木汲田遺跡、唐津市内遺跡確認調査（29）、唐津城跡（Ⅵ）
神埼市教育委員会	伏部大石遺跡 4区、市内遺跡確認調査概要報告書Ⅴ
長崎県	
佐世保市教育委員会	史跡福井洞穴発掘調査速報
熊本県	
宇土市教育委員会	国指定史跡 宇土城跡（西岡台）
大分県	
中津市教育委員会	法垣遺跡 加来東遺跡、三口遺跡 広畑地区、沖代地区条理跡 長者屋敷官衙遺跡 定留鬼塚遺跡、八並城跡、沖代地区条理跡 橋爪地区、大道端遺跡
杵築市教育委員会	御塔山古墳発掘調査報告書
宮崎県	
宮崎県埋蔵文化財センター	宮崎県埋蔵文化財センター年報第17号
宮崎市教育委員会	生目古墳群Ⅲ、高岡麓遺跡第33地点、史跡穆佐城跡Ⅰ、竹篠遺跡、竹ノ山遺跡
都城市教育委員会	都城市内遺跡7
鹿児島県	
鹿児島県立埋蔵文化財センター	埋文だより第61号～第63号
（公財）鹿児島県文化振興財団	平成25年度 要覧、鹿児島の遺跡 創刊号～第3号
霧島市教育委員会	気色の杜遺跡2（大隅国府跡）
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	鹿児島大学構内遺跡 桜ヶ丘団地Ｄ・E-5 ～ 7区（新病棟用地）
その他	
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	埋蔵文化財関係統計資料、公立埋文協会報第51号、発掘調査のてびき - 各種遺跡調査編 -

全国埋蔵文化財法人連絡協議会	全国埋文協会報 No.83
文化環境研究所	カルチベイト No.41
大谷壽文	探訪 由加の歴史
朝日新聞出版	週間 新発見日本の歴史08 古墳時代1 邪馬台国と卑弥呼の謎
(株) 平凡社	楽しい古墳案内
(株) 吉備人	吉備邪馬台国東遷説
(株) 童心社	遺跡から調べよう！②弥生時代
(公社) 日本文化財保護協会	飛天
大成エンジニアリング株式会社	横田1号遺跡発掘調査報告書
(有) 京都平安文化財	平安京右京四条一坊七町（朱雀院）跡
(株) イビソク	平安京左京北辺二坊八町跡、白河街区跡・岡崎遺跡、平安京左京二条二坊十二町跡

平成26（2014）年度

Ⅰ 組　織

埋蔵文化財センターは、文化財保護課の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。平成26年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなっている。

倉敷市教育委員会 ― 生涯学習部 ― 文化財保護課 ― **埋蔵文化財センター**

文化財保護課	副参事（兼）課長	福本　明
埋蔵文化財センター	館　長	鍵谷 守秀
〃	主　幹	小野 雅明
〃	主　任	藤原 好二
〃	嘱託職員	内田 智美
〃	〃	杉浦 美保
〃	〃	那須 玲子

（職名等は平成27年3月31日現在）

Ⅱ 事業の概要

1　調査事業

(1) 事前協議　Fax 等による埋蔵文化財包蔵地照会は415件と前年度比で約12% 減と、平成23年度からの増加傾向が一息ついた形である。また開発指導要綱に基づく事前協議の件数は5件であった。このうち上東遺跡に係る1件について文化財保護法に基づく届出が提出された。

(2) 発掘調査　平成26年度は確認調査6件、試掘調査1件、立会調査25件を実施した。植樹中に埴輪が見つかった酒津山45号墳では、墳端を確認するための測量とトレンチ調査を行った。圃場整備事業に伴って実施した玉島陶中地区の試掘調査では、中世の遺構が確認されたため、門ノ前遺跡として登録した。立会調査は、公共工事に伴うものが17件、民間の開発に伴うものが8件である。

(3) 分布調査　平成17年度の合併以来継続してきた真備・船穂地区の分布調査の成果について、倉敷市遺跡地図（真備・船穂地区）として刊行した。また、所在不明であった真備町箭田の古墳2基について、再度踏査を行い所在を確認することができた。

(4) 整理作業　確認調査等で出土した遺物の洗浄・注記を実施した。また、昨年度に引き続き、新熊野山遺跡（平成22年度調査）から出土した中世土器類について、実測を行うとともに、矢部遺跡から出土したとされる竜形土製品についても実測を行った。

2　教育普及事業

(1) 主催講座等　春の遺跡見学会など、延べ19回の講座等を実施。延べ参加人数3,243人。

講座・イベント名	実施日	内　容	参加人数
春の遺跡見学会⑲	5/11（日）	吉備の王墓をめぐる	34人
簡単にできるらでん細工の小物入れ	7/23（水）	らでんによる小物入れの飾り付け	21人
古代模様のランプシェード	7/27（日）	紙細工によるランプシェード作り	9人
ガラスでとんぼ玉を作ろう	7/30（水）	ガラスを用いたとんぼ玉作り	12人
はにわの消しゴムを作ろう	8/3（日）	はにわの形の消しゴム作り	22人
古代の勾玉を作ろう	8/6（水）	高麗石を用いた勾玉作り	22人
ライフパークの集い	8/17（日）	ミニチュア土器等の発掘体験	1,989人
ミニチュアの古代鏡を作ろう	8/20（水）	低融点合金を用いたミニチュア鏡作り	8人
古代の土笛を作ろう	8/23（土）	はにわ粘土を用いた土笛作り	19人
古代模様のしおりを作ろう	8/24（日）	拓本を利用したしおり作り	6人
大人のとんぼ玉講座	9/21（日）	ガラスを用いたとんぼ玉作り	7人
大人のランプシェード作り	9/28（日）	紙細工によるランプシェード作り	10人
秋の考古学講座 「古墳時代中期の吉備を考える」	10/26（日）	千足古墳の発掘調査	32人
〃	11/2（日）	墳丘形態からみた吉備の中期古墳	40人
〃	11/9（日）	埴輪からみた古墳時代中期の吉備	33人
こどもまつり	2/8（日）	とんぼ玉ストラップ作り	920人
遺跡探訪	2/28（土）	一丁坦1号墳と荒平山城跡	38人
勾玉のストラップを作ろう	3/1（日）	高麗石を用いた勾玉ストラップ作り	19人
親子で昔模様のしおりを作ろう	3/8（日）	拓本を利用したしおり作り	2人

(2) 出前講座等講師派遣　古代の土笛作り等、延べ12回の派遣。延べ参加人数366人。

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
博物館学実習	5/21（水）	倉敷芸術科学大学	40人
野外博物館実習	6/29（日）	岡山理科大学	33人
古代の土笛作り	7/24（木）	二福のびのびクラブ（二福小内）	16人

派遣内容	開催日	依頼団体	参加人数
古代模様のしおり作り	7/29（火）	まびっこ岡田児童クラブ	17人
古代の土笛作り	7/31（木）	くらしき夢クラブ（西小内）	18人
〃	8/1（金）	おかやまコープ赤崎コープ委員会	52人
〃	8/7（木）	福島子ども会	19人
縄文ポシェットを作ろう	8/12（火）	水島公民館	18人
館外研修（女性セミナー）	11/13（木）	玉島公民館	44人
王墓の丘史跡公園案内	11/22（土）	庄学区愛育委員会	25人
ひさしやま学習	12/10（水）	倉敷市立庄小学校	73人
古代の勾玉作り	3/13（金）	ふれあい教室（教育センター）	11人

(3) 報告書等の刊行

倉敷市遺跡地図（真備・船穂地区）
A2判　本文24頁　100部　平成27年3月刊行

(4) 資料の貸出

	貸出期間	資料名	貸出先	使用目的
1	7月19日～9月24日	下津井城跡出土 軒丸瓦等　9点 下津井城跡　模型　1点	岡山県立博物館	平成26年度企画展 「岡山の城と戦国武将」 にて展示
2	8月20日～10月8日	矢部堀越遺跡出土 特殊器台形埴輪　1点	岡山県立博物館	平成26年度特別陳列 「大地からの便り」 にて展示

(6) 写真の掲載許可等

	許可日	写真名	許可先	掲載物等
1	6月27日	釜島西丘上遺跡出土 石器　3点	（株）TBSテレビ	TBSテレビ 「アイ・アム・冒険少年」
2	10月1日	施帯文石　1点	書肆亥工房	岡山文庫 『吉備線各駅ぶらり散策』
3	3月10日	秦原廃寺 軒丸瓦　1点	総社市教育委員会	『古代の先進地 秦の歴史遺産から見えてくるもの』

3　利用者数

展示・講座等を含めた平成26年度の利用者数は下表のとおりである。総利用者数は15,063人で、昨年度と比較して約10％の増となった。主催講座の内容見直しやイベントの参加者増によって、減少傾向から持ち直したものと考えられる。

《平成26年度月別利用者数》

月	大人	子ども	講座等	計	開館日数	1日平均利用者数
4	336	478		814	26	31
5	430	587	74	1,091	26	42
6	273	270	33	576	25	23
7	520	878	102	1,500	26	58
8	678	864	2,155	3,697	27	137
9	375	537	17	929	25	37
10	311	625	32	968	26	37
11	363	513	142	1,018	26	39
12	128	202	73	403	23	18
1	256	271		527	23	23
2	702	631	958	2,291	24	95
3	548	669	32	1,249	26	48
合計	4,920人	6,525人	3,618人	15,063人	303日	50人

4　寄贈資料

平成26年度には下記の考古資料等の寄付を受けた。

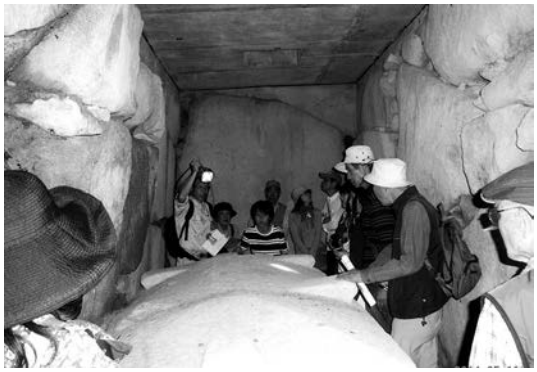
寄　贈　日	寄贈者名	資　料　名	数　量
11月28日	矢尾俊雅	王墓山丘陵周辺出土の考古資料	748点

Ⅲ 教育普及事業報告

1　春の遺跡見学会⑲
～吉備の王墓をめぐる～

日　時　平成26年5月11日（日）
講　師　小野雅明（倉敷埋蔵文化財センター）
対　象　一般
参加者　34人

吉備路風土記の丘とその周辺にある墳丘墓や古墳を訪ね、古代吉備の歴史について学んだ。はじめに、弥生墳丘墓としては最大級の楯築遺跡を見学し、発掘調査の成果を照合しながら墳丘の大きさを実感した。収蔵庫に祀られている弧帯石の不思議な造形美を鑑賞した後、県下最大の巨大前方後円墳である造山古墳に移動。後円部から前方部に向かって縦走し、その雄大な姿に目を見張った。前方部上では阿蘇凝灰岩製の石棺を観察した。九州に由来するこの石棺が、どの古墳に納められていたのか不明であるが、造山古墳の陪塚のひとつ、千足古墳にも九州系の初期横穴式石室が２基築かれている。この場所から約300ｍ南西にある千足古墳を眺めながら当時の吉備と九州との強い結びつきについて想像を膨らませた。午後からは県下三大巨石墳のこうもり塚古墳、江崎古墳の順に足を運んだ。両古墳の石棺は同じ石材で作られている点や、蓋石の形状の差異などを確認した。そして、バスを西に走らせて最後の訪問地である箭田大塚古墳に到着。こうもり塚古墳と肩を並べる巨大な石室内を見学した。



2　夏休み体験講座
～古代模様のランプシェード～

日　時　平成26年7月27日（日）
講　師　那須玲子（倉敷埋蔵文化財センター）
対　象　小学5～6年生
参加者　9人

画用紙とトレーシングペーパーを使って、簡単なランプシェードを制作した。まず、長方形の黒い画用紙に、古代の装飾品や土器等の模様をアレンジした図案を貼り付ける。次に画用紙を図案どおりに切り抜き、内側にトレーシングペーパーを貼って三角柱に組み立てる。黒画用紙で蓋を作り、中に市販のチェンジングライトを入れて部屋の電気を消すと、古代模様がうっすらと浮かび上がり、その幻想的な様子に子ども達は小さな歓声を上げていた。

3　夏休み体験講座

～古代模様のしおりを作ろう～

日　時　平成26年8月24日（日）
講　師　杉浦美保（倉敷埋蔵文化財センター）
対　象　小学4～6年生
参加者　6人

拓本と色紙や画用紙を組合せてしおりを作る講座。ベースとなる長方形の色画用紙に、縄文土器などの文様を再現した土版から取った拓本や色紙、型抜き模様などを組合せたあと、ラミネーターに通してしおりを完成させた。レプリカの土版は吸水性が高く画仙紙の乾燥が早かったため、初めて拓本を経験する子ども達にとっては少し難しいようだったが、自由な組合せでできた作品にはどれも個性豊かな発想力が感じられた。

4　遺跡探訪

～一丁坑1号墳と荒平山城跡～

日　時　平成26年2月28日（土）
講　師　高橋進一（総社市教育委員会）
対　象　一般
参加者　38人

今回の遺跡探訪は総社市秦に所在する一丁坑1号墳と荒平山城跡を訪れた。一丁坑1号墳は4世紀前半に築かれた全長74mと吉備南部では最大の前方後方墳であり、荒平山城跡は軍記物にも出てくる16世紀後半の城跡である。両者ともに眼下に高梁川を望む河川交通の要衝に立地しており、総社市街地ばかりか瀬戸内海を望むこともできる。こうした遺跡からの広い眺望に、参加者の多くは目を奪われた様子であった。また、総社市教育委員会の高橋進一氏の解説は、ユーモアを交えながらも詳細におよび、参加者の好評を博した。

5　考古学体験講座

～勾玉のストラップを作ろう～

日　時　平成27年3月1日（日）
講　師　内田智美（倉敷埋蔵文化財センター）
対　象　小学4～6年生
参加者　19人

これまで行ってきた勾玉作り講座の内容を一部変え、よりアクセサリー性の高い勾玉を作ることを意図して実施した。使用する石材や勾玉の大きさなどはこれまでと同じであるが、ストラップに編み上げる時間を考慮して、平面を勾玉の形に仕上げた石材から作業を始めた。角を落としたあと表面を磨き染料で染めるまでの工程は同じで、最後に色の違う2本の細い紐を勾玉の穴に通すように平結びで編み上げ、途中に金具を組み込んで作品を完成させた。

Ⅳ 調査事業報告

平成26年度調査一覧表

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区 別	調査期間	調査結果
1	桜の堤	玉島勇崎	水道管埋設工事	立　会	14.04.22	遺物・遺構なし
2	酒津山45号墳	酒津	植樹	確　認	14.04.23～14.04.25	円筒埴輪・須恵器片
3	上東遺跡	上東	宅地造成工事	立　会	14.05.29	弥生土器片
4	蓮池尻遺跡	真備町妹	水道管埋設工事	〃	14.05.30	遺物・遺構なし
5	奥田池西遺跡	真備町下二万	道路改良工事	確　認	14.06.10	須恵器片
6	塩生遺跡	児島塩生	水道管埋設工事	立　会	14.06.10	遺物・遺構なし
7	上東遺跡	上東	下水道管埋設工事	〃	14.06.11	〃
8	上東遺跡	上東	水道管埋設工事	〃	14.07.02 14.07.05	弥生土器片
9	上東遺跡	上東	水道管埋設工事	〃	14.07.23	遺物・遺構なし
10	塩生遺跡	児島塩生	水道管埋設工事	〃	14.07.23	〃
11	油田遺跡	真備町妹	水道管埋設工事	〃	14.08.21	〃
12	舟津原貝塚	粒江	個人住宅建設工事	〃	14.08.28	〃
13	通生遺跡	児島通生	下水道管埋設工事	〃	14.09.03	〃
14	矢砂遺跡	真備町箭田	水路改修工事	〃	14.09.30	〃
15	上東遺跡	上東	水道管埋設工事	〃	14.10.10	〃
16	舟津原貝塚	粒江	浄化槽埋設工事	〃	14.11.10	〃
17	塩生遺跡	児島塩生	配水管埋設工事	〃	14.11.15	〃
18	島地北貝塚	玉島八島	宅地造成工事他	確　認	14.11.18	〃
19	上東遺跡	上東	浄化槽設置工事	立　会	14.12.02	Pit
20	和唐寺遺跡	真備町岡田	水路改修工事	〃	14.12.02	遺物・遺構なし
21	中須賀遺跡	真備町箭田	水路改修工事	〃	14.12.05	〃

No.	遺跡名	該当地	調査原因	区 別	調査期間	調査結果
22	上東遺跡	上東	水道管埋設工事	立　会	14.12.09	遺物・遺構なし
23	庄城跡	上東	寺院本堂解体工事	〃	14.12.17	〃
24	庄城跡	上東	寺院本堂建替工事	確　認	15.01.07 ～ 15.01.08	中世土器・瓦
25	上東遺跡	上東	浄化槽設置工事	立　会	15.01.14	中世土器片
26	庄城跡	上東	寺院本堂建替工事	〃	15.01.26 ～ 15.01.27	備前焼片・瓦片
27	矢部遺跡	矢部	個人住宅建設工事	確　認	15.01.28 ～ 15.01.29	布目瓦
28	中津貝塚	玉島黒崎	配水管埋設工事	立　会	15.01.27	遺物・遺構なし
29	上東遺跡	上東	宅地造成工事	確　認	15.02.10	土壙・弥生土器片
30	天狗山古墳	真備町下二万	電柱撤去工事	立　会	15.02.25	遺物・遺構なし
31	玉島陶中地区	玉島陶	農業基盤整備事業	試　掘	15.03.03 ～ 15.03.06	亀山焼・土師質土器
32	通生遺跡	児島通生	下水道管埋設工事	立　会	15.03.26	遺物・遺構なし

調査地点位置図（S＝1/100,000）

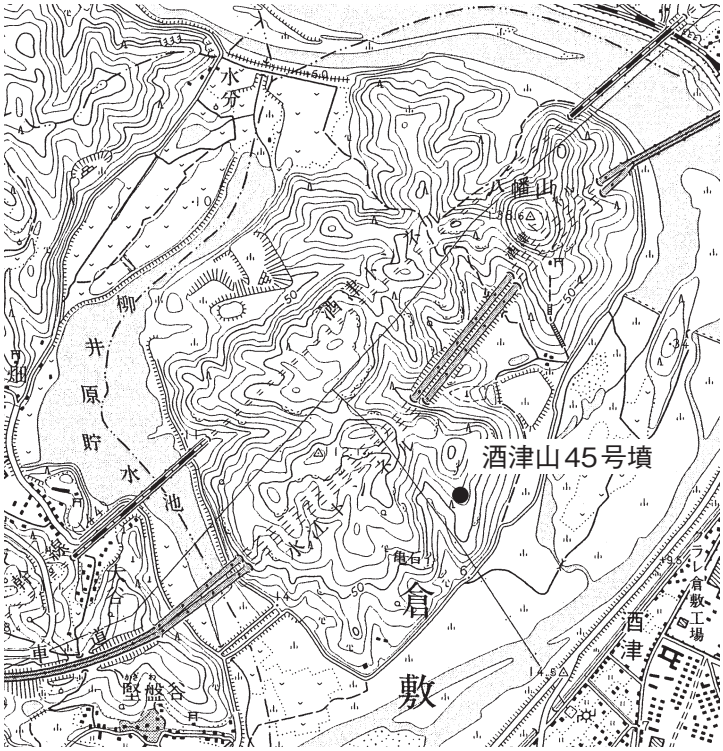
酒津山45号墳確認調査報告（一覧表 No.2）

調査位置	酒津1041番1	**調査面積**	10㎡
調査原因	植樹	**調査担当**	鍵谷・小野
調査期間	14.04.23～14.04.25		藤原好・藤原憲

調査の契機　酒津山45号墳は、水江の八畳岩へ至る登山道の東側、南へ延びる丘陵が傾斜を変えやや平坦になる標高約60ｍの尾根筋上に位置する。45号墳の南に延びる平坦面は、現在小規模な畑や果樹園などの耕作地となっている。平成26年3月末、この耕作地の古墳寄りの部分において、地主が植樹のために1ｍ四方の穴を掘ったところ円筒埴輪片が出土したとの連絡が教育委員会にあった。急きょ現地確認を行ったところ、穴の位置は傾斜変換点から2ｍほど離れており、出土状況から埴輪は古墳からの流土に含まれていた可能性が高いと思われた。そこで、古墳の規模を明らかにし、今後耕作を行う際の目安とするため、トレンチ2か所を設定して確認調査を行うこととなった。また、合わせて墳丘の測量調査も実施した。

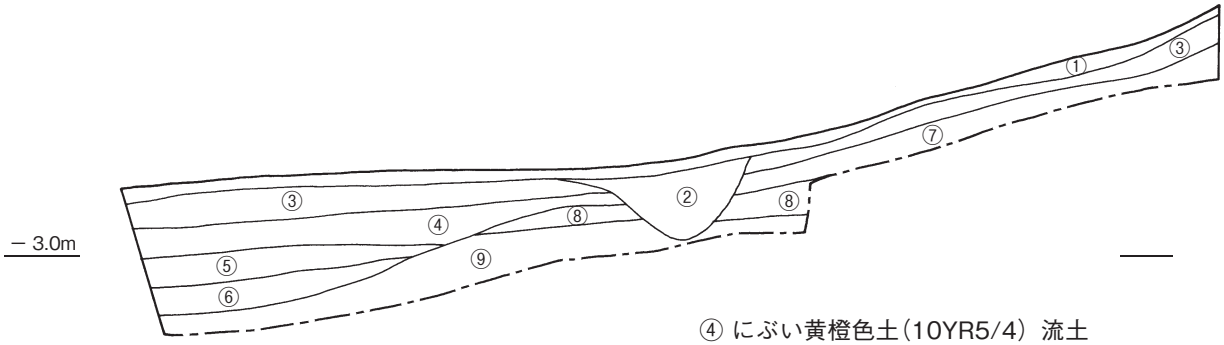
調査の概要　円筒埴輪の出土層位が明らかになるよう、地主が掘った植樹の穴を取り込む形で、墳丘中心部に向かって幅1ｍ・長さ6ｍのトレンチを設定し（トレンチ1）、断面観察を行った。

地形的には墳丘の前端部分にあたるトレンチ北半で、表土直下の薄い流土層（③層）に続いて2層の墳丘土を確認した（⑦層・⑧層）。これらはいずれも締まりの弱い黄褐色系の土で、有機物や地山ブロック粒などは含んでおらず、流土との差はそれほど明瞭ではない。トレンチ中央付近では、⑧層の直下で明黄褐色の硬質土が検出され、基盤層（地山）と考えられる。この土層は、トレンチ南端から2ｍ付近までほぼ水平に延びた後、南へ向けて緩やかに傾斜している。そして、この基盤層の傾斜変換点から墳丘が盛られ始めていることから、南側の墳端部分については、古墳築造に先立ち土地の造成が行われた可能性も考えられる。トレンチの南端では、黄橙色系の流土が4層確認されたが、最下層を除く3層から須恵器片及び埴輪片が少量出土している。なお、植樹の際出土した円筒埴輪は、地主の話等から④層から⑤層にかけて含まれていた可能性が高い。

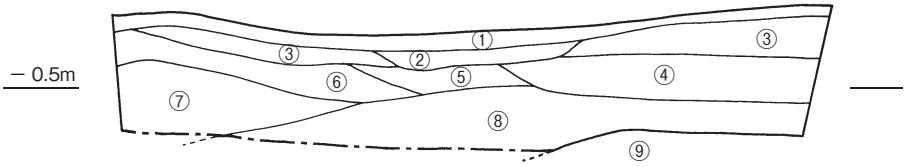


古墳位置図（S＝1/25,000）

トレンチ1の延長線上、古墳北側の墳端が想定される部分に、幅1ｍ・長さ4ｍのトレンチを設定した（トレンチ2）。トレンチの北半、地表下約60㎝で検出したにぶい黄橙色を呈する硬



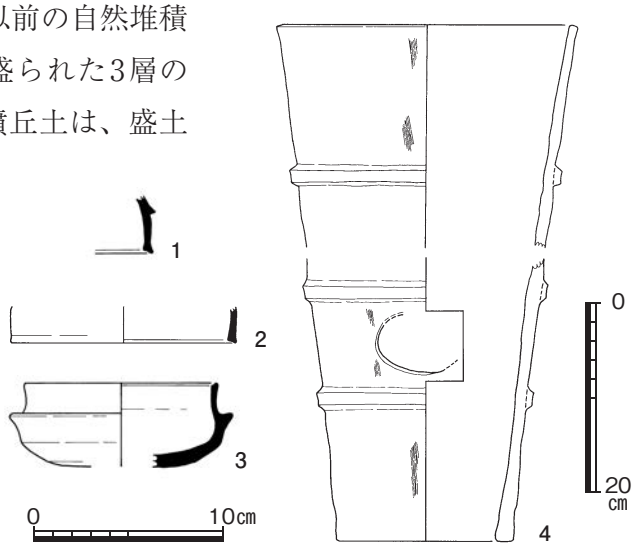
トレンチ１西壁断面図（Ｓ＝1/40）



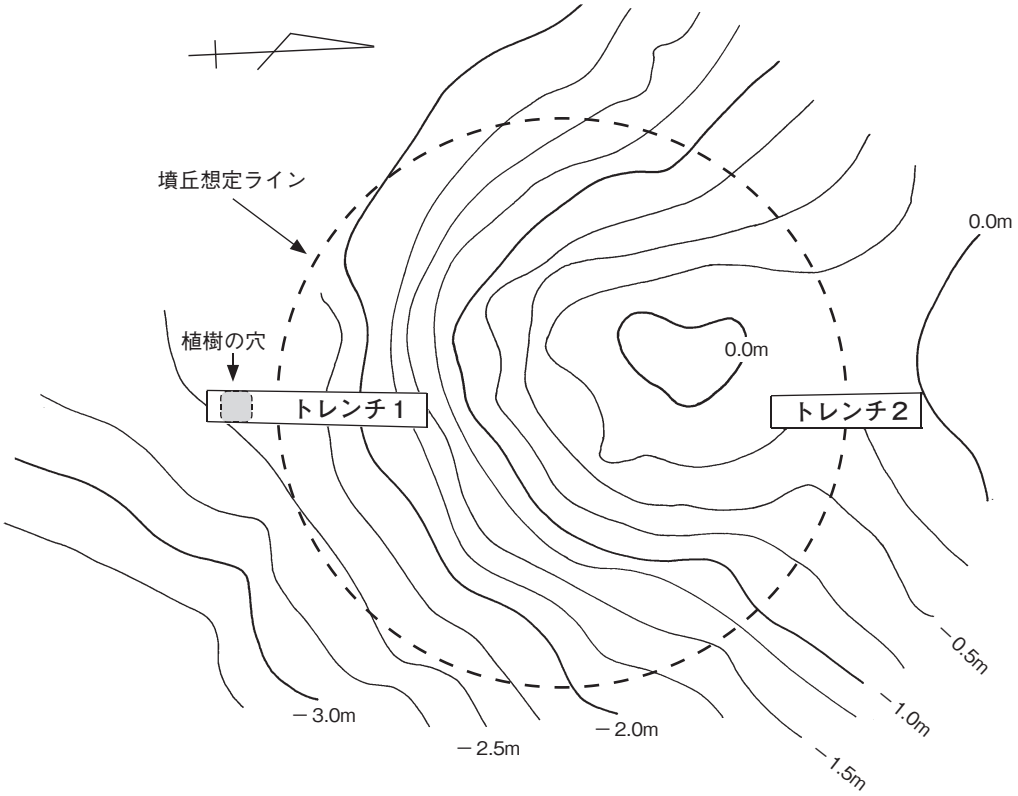
トレンチ２西壁断面図（Ｓ＝1/40）

質の土層（⑨層）は、トレンチ1で確認した基盤層に相当するもので、トレンチ中央付近から南へ緩やかに下降している。この基盤層の上には、同じような角度で南へ向かって下がっていく締まりの弱い土層（⑧層）が認められ、古墳築造以前の自然堆積層と思われる。トレンチの南半で、⑧層上に盛られた3層の墳丘土を確認した。黄橙色を呈するこれらの墳丘土は、盛土としては締まりの弱いもので、トレンチ1における墳丘土の状況とほぼ同じである。なお、トレンチ2からは、須恵器や埴輪等の遺物は出土しなかった。

出土遺物　今回のトレンチ調査で出土した須恵器には、杯蓋・杯身・甕・高杯などの器種が確認できるが、いずれも小片で図化できたのは3点である。1・2は、ほぼ垂直に立ち上がる杯蓋の口縁部で、どちらも胎土は精



出土遺物（S=1/4・1/8）



墳丘測量図・トレンチ配置図（S＝1/200）

良で焼成も良好である。1は、口縁部と天井部の境にシャープな稜を1段有し、口縁端部は幅5㎜程度の内傾する凹面となる。2は1/10程度の小片であるが、口径約12㎝に復元でき、1と同様、口縁端部には内傾する凹面をつくる。3は口径10.2㎝、幅11.8㎝を測る小型の杯身で、胎土は精良で焼成も良好である。ややそり気味にほぼ垂直に立ち上がる口縁部は、口径に比して高く、その端部は内傾する凹面となる。胎土や焼成、色調が2の杯蓋と酷似しており、これとセットになると思われる。これらの須恵器の特徴は、陶邑編年 TK43型式の範疇にほぼ収まるものである。

今回出土した埴輪は、植樹の際掘り出されたものを含めてほとんどが円筒埴輪片で、色調や胎土から明らかに別個体と思われる数点を除けば他は非常に似通った破片が多く、多くても２～３個体分の破片と考えられる。なお、黒班が観察できる破片は認められない。4は植樹の際出土した円筒埴輪で、直接接合しないが同一個体と思われる。口径31.8㎝、基底部径18.6㎝を測り、高さは54㎝程度の４段に復元できる。透かし孔は、２段目と３段目が90°違えた位置になるよう配しており、透かし孔を含む破片の数から、おそらくそれぞれ180°反対の位置にも透かし孔が割り付けられていたものと思われる。焼成はやや軟質で全体的に磨滅が認められるため、内外面の調整ははっきりしないが、外面には目の細かいタテハケの痕跡が部分的に認められる。

古墳の規模と年代　トレンチ1及びトレンチ2で確認された墳端の位置から、南北の墳丘の長さは約15ｍとなる。東西の規模については明らかではないが、測量図等からほぼ同程度と思われ、現段階では径15ｍ程度の円墳と考えておきたい。古墳の築造時期については、出土した須恵器片から、おおむね5世紀末から6世紀初頭の年代が導かれ、これは円筒埴輪が示す年代観とも大きく矛盾するものではないと思われる。（鍵谷）

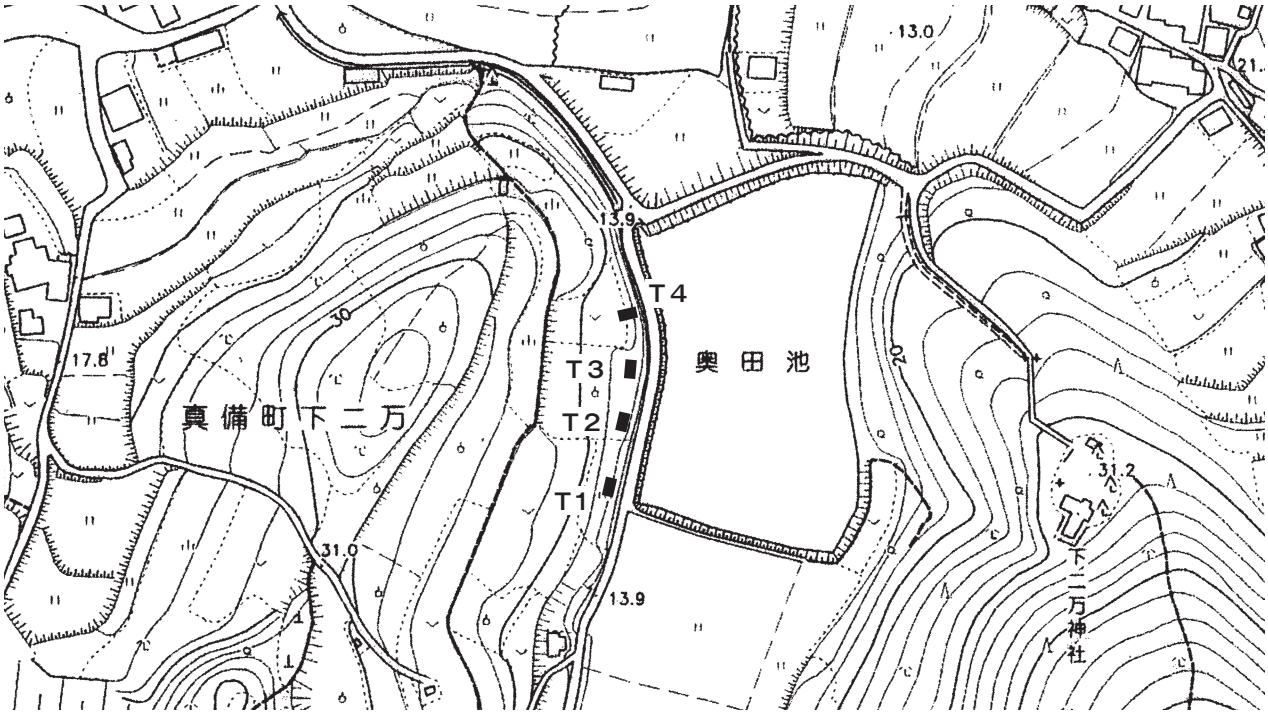
奥田池西遺跡確認調査報告（一覧表 No.5）

調査位置	真備町下二万地内		
調査原因	道路改良工事	調査面積	8㎡
調査期間	14.06.10	調査担当	小野・藤原

遺跡の概要　奥田池西遺跡は、小田川から南に入り込んだ狭い谷奥に位置する奥田池西側の丘陵東側緩斜面に立地している。畑中に須恵器や土師器の破片が散布していることから、古墳時代に属すると推定される。周辺は、天狗山古墳（帆立貝形前方後円墳、墳丘長約60m）や二万大塚古墳（前方後円墳、墳丘長約38m）など古墳時代中期後葉から後期にかけての有力な古墳が集中する地域でもある。

調査の概要　調査地は標高16mほどの畑地であり、拡幅予定の道路面より約1.5～2mほど高くなっている。調査は道路改良によって削平される部分に2×1mのトレンチを4か所設定し、地層の断面観察を中心に行った。

削平予定地内の最も南に設定したトレンチ1では、耕作土、床土、自然堆積層、基盤層の順に土層が観察されたが、遺構は確認されなかった。トレンチ2～3では基本的に耕作土、床土、造成土、自然堆積層、基盤層の順に土層が観察された。造成土は畑の段築を形成した際のものと推定される。また、トレンチ4では土壙状遺構が確認されたが、埋土は造成土と似ており、比較的新しい時期の植栽痕ではないかと考えられる。遺物としては、トレンチ1の自然堆積層から高台を持つ須恵器片1点が出土し、トレンチ2の自然堆積層とトレンチ4の造成土から時期不明の土器細片がわずかに検出された。トレンチ1の須恵器片は摩耗が著しいが、古代のものではないかと考えられる。以上のように今回の調査では重要な遺構は確認されず、また、出土した遺物も少量であり、西側のより上方から流されてきたものであると考えられる。（藤原）



トレンチ位置図（S＝1/2,500）

島地北貝塚確認調査報告（一覧表 No.18）

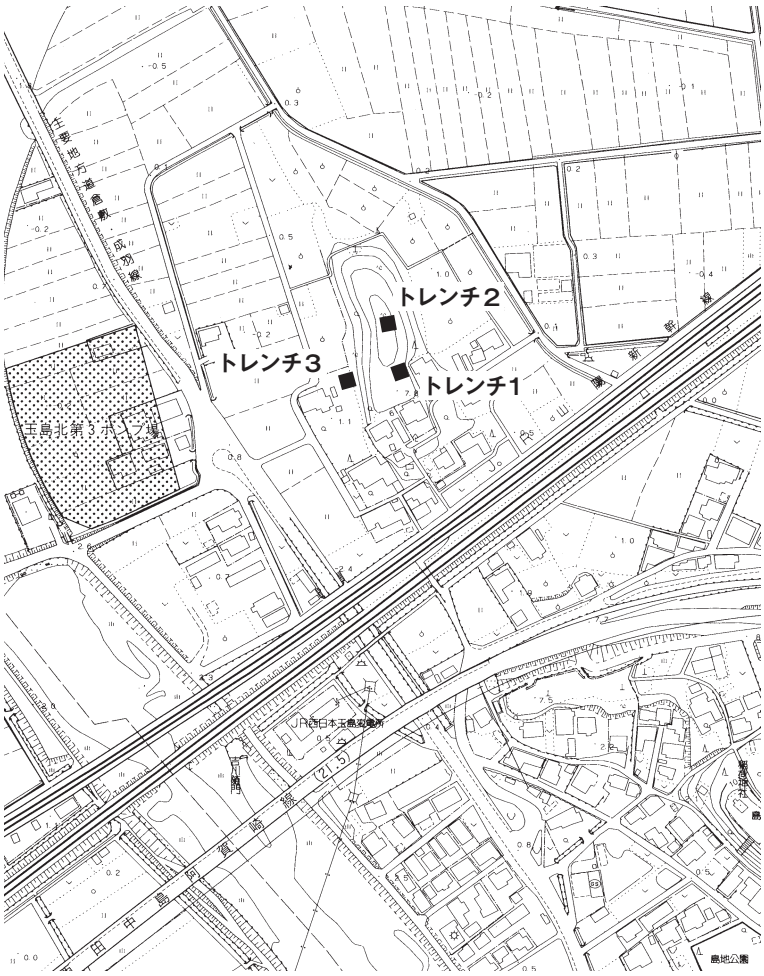
調査位置　玉島八島字壱丁目1927番１外
調査原因　宅地造成工事他　　**調査面積**　8㎡
調査期間　14.11.18　　**調査担当**　小野・藤原

遺跡の概要　倉敷市玉島八島には、七島と呼ばれる東西に連続して並ぶ小島の列が存在した。この小島列は、近世干拓によって周囲が陸地化した現在、丘陵として残っているが、その最も西に位置する小島の北側を中心に島地北貝塚は所在している。平成6年に実施した分布調査では、丘陵北側の畑地でハイガイの散布を認めるとともに、須恵器片や土師器片を採集している。また、平成22年には丘陵北側の畑地において、宅地造成工事に伴う確認調査を実施しているが、遺物、遺構は確認されていない。

調査の概要　調査は開発予定地のうち遺跡範囲に含まれる部分に2×2ｍのトレンチを3か所設定して地層の断面観察を中心に行った。

トレンチ1・2は南北に延びる標高8ｍほどの丘陵尾根部に設定した。この付近は竹藪であったが、開発に伴う抜根作業によって地表面が荒れた状態になっていた。両トレンチとも腐植土をはぎ取るとすぐに地山を確認することができた。地山は明黄褐色から橙色を呈し、拳大の円礫を含む粘質の強い土である。トレンチ2では部分的に自然堆積層である黄灰色土が認められたが、両トレンチとも遺構、遺物は確認されなかった。

トレンチ3では、腐植土の下に浅黄色土層と灰黄褐色土層からなる厚さ30～50cm程度の造成土が認められ、その下は地山であった。浅黄色土層は地山を崩した土であり、明黄褐色土と灰黄褐色土のブロックを含んでいる。灰黄褐色土層は旧耕作土の可能性もあるが、10cm大の礫が多く含まれることから造成土と判断した。各層から遺構、遺物は確認されなかった。以上のように、今回の調査では遺構、遺物は確認されなかった。平成22年の確認調査の結果とあわせて考えてみると、遺跡の範囲は丘陵北端の畑地を中心とした低地のごく狭い範囲に限られる可能性が高いと考えられる。　（小野）



トレンチ位置図（S=1/5,000）

庄城跡・上東遺跡確認調査概要（一覧表 No.24）

調査位置　上東628
調査原因　本堂・客殿新築工事　**調査面積**　8㎡
調査期間　15.01.07～15.01.08　**調査担当**　小野・藤原

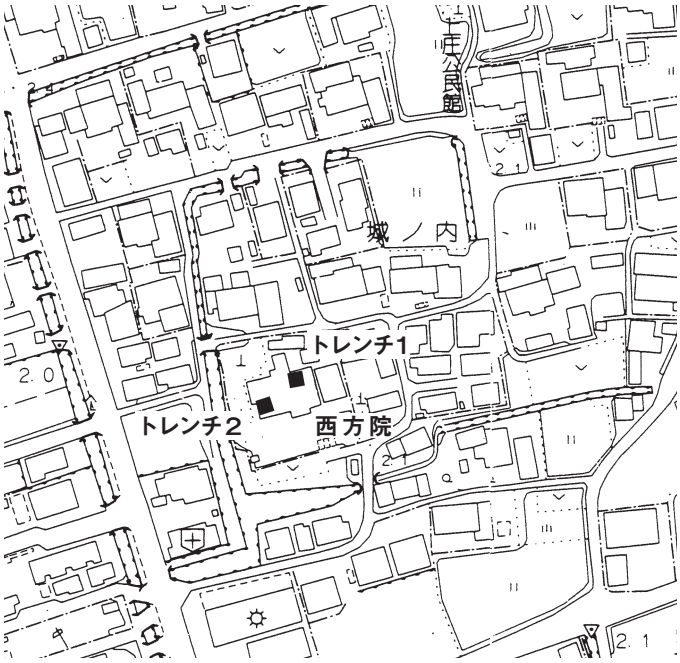
遺跡の概要　該当地周辺は、庄城跡と上東遺跡の二つの遺跡範囲が重複する部分である。特に今回本堂・客殿の新築工事を行う西方院の敷地は、「城の内」という小字が残り、また、周囲を堀状の水路で囲まれ、中世城館の中心部分であったと推定される。なお、西方院は天平勝宝6年（756）に報恩大師が建立した日差山の山岳寺院の末であると伝えられ、寛永13年（1636）に庭瀬藩主戸川氏の日蓮宗改宗政策によって日差山を去って現在地に移っている。

調査の概要　調査は本堂・客殿建設予定地について2×2mのトレンチ2か所を設定して実施した。

トレンチ1は予定地の北東よりに設定した。地表下約0.6mまでの層には、近世の瓦片や中世土器片が含まれており、近世の礎石掘削壙や攪乱が確認された。遺物には青磁や瀬戸あるいは美濃焼の椀の破片等も含まれている。さらに下の地表下約0.6～1.5mの層は中世の造成土と考えられ、上面（標高約1.8m）でピット8基を検出した。いずれも直径20～40㎝程度で、埋土に土師器椀の破片が含まれている。地表下約1.5m以下の層は比較的均質な土質から湿地状地形における自然堆積層と考えられる。ここからは13世紀代のものと推定される土師器椀の破片が多数が出土している。

トレンチ2は建設予定地の西寄りに設定した。地表下約0.6mまでの層には、近世の墓石片や中世の土器・瓦片が含まれており、近世の溝状遺構も確認された。さらに下の地表下約0.6～1.2mの層は中世の造成土と考えられるが、ここでは上面（標高約1.8m）に遺構は確認されなかった。地表下約1.2m（標高1.2m）以下の層は、遺物を含まず、かたくしまった土層である。この層は上東遺跡内では弥生時代の遺構がのる基盤層と考えられている層である。

今回の調査から、わかる範囲で地形及び景観を復元すると以下のようになる。中世以前の段階では調査地の西側には標高1.2m程の微高地があり、東側には低湿地が広がっていたと考えられる。13世紀代以降に大規模な造成が行われ、掘立柱建物などが建設されてたと考えられる。さらに中世末までには瓦葺きの建物があり、青磁や瀬戸焼等の陶磁器を使用する階層の人々が生活していたことが推定され、この時期に「城の内」という小字に示される城館が存在していたと推定される。その後、寛永13年の西方院の移転に伴う造成によって、この時期の遺構面は削平されてしまったと考えられる。（藤原）



トレンチ位置図（S=1/2,500）

矢部遺跡確認調査報告（一覧表 No.27）

調査位置　矢部字一ノ坪358番5
調査原因　住宅建設工事　　**調査面積**　4㎡
調査期間　15.01.28～15.01.29　　**調査担当**　鍵谷・小野

遺跡の概要　遺跡は、倉敷市の北東端、岡山市との境にある矢部の集落内に位置する。古くから奈良時代の瓦が多く出土することで知られており、かつては矢部廃寺と呼ばれ寺院跡とされていたが、塔心礎が確認されていないことや古代山陽道に面していることなどから、現在では駅家跡と考えられている。しかし、これまでに正式な発掘調査は行われておらず、駅家の規模や施設の内容については明らかでない。

調査の概要　住宅建設予定地に2×2m のトレンチ1か所を設定して、人力による調査を行った。以下、土層ごとにその概要を述べる。

現在の耕作土の下には、厚さ約20㎝の褐灰色土と厚さ約10㎝の明黄褐色土が認められた。これらの土層には、奈良時代の瓦片のほか、弥生土器・須恵器・中世土器の小片が少量含まれているが、土質や色調等から近世以前の耕作土の可能性がある。

この下、地表下約50㎝で、褐灰色～黒褐色を呈する奈良時代の遺物包含層を検出した。厚さ約30㎝で粘質を帯びるこの包含層は、下に行くにつれ徐々に色の濃さを増す3層に分層できる。遺物としては、奈良時代の瓦片のほか、少量の弥生土器小片とわずかではあるが須恵器片が出土した。遺構については、精査したものの検出されなかった。

包含層の下は厚さ約15㎝の褐灰色の粘土層となっており、この下で明黄褐色を呈する堅くしまった基盤層（地山）を確認した。

今回の調査で出土した奈良時代の瓦片は、遺物包含層出土のものも含めて概して小片が多く、軒先瓦も全く出土しなかった。また、二次焼成を受けて表面が淡黒色を呈するものが比較的多く見られた。

遺物の内容やその出土状況を考えれば、今回の調査地点はおそらく遺跡の中心からは外れていると思われるが、地表下約50㎝の深さで明瞭な遺物包含層が確認されていることから、中心部分の周辺にも遺跡が比較的良好な状態で残存している可能性が高いと考えられる。（鍵谷）

トレンチ位置図（S=1/2,500）

上東（じょうとう）遺跡確認調査報告（一覧表 No.29）

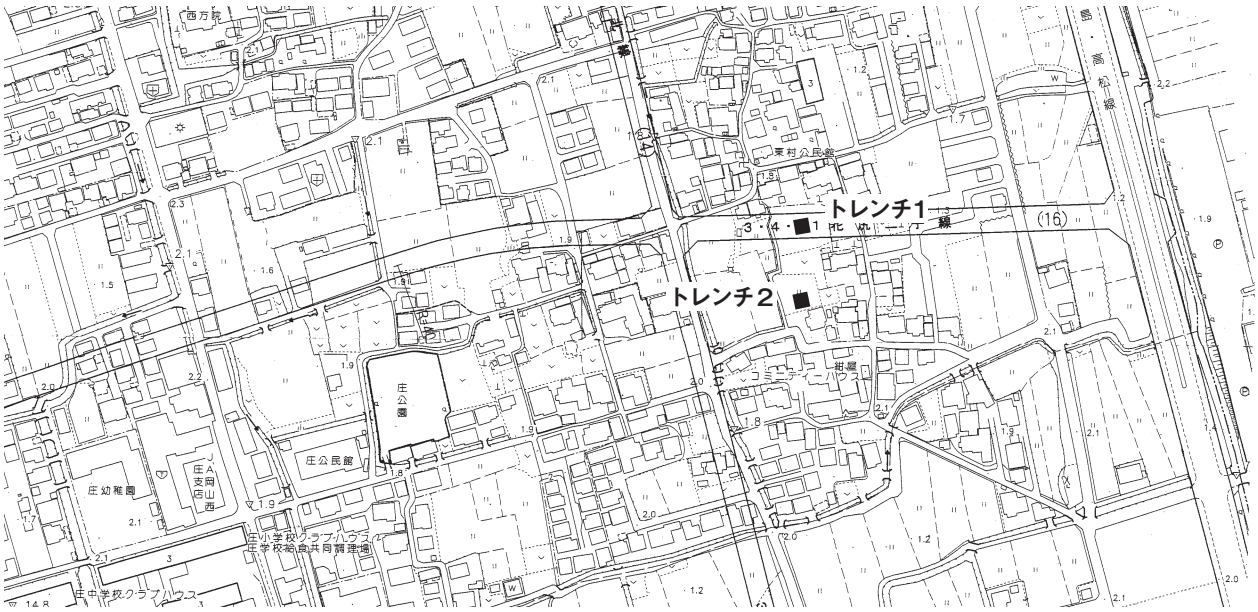
調査位置	上東字左馬之助256番外		
調査原因	宅地造成工事	**調査面積**	8㎡
調査期間	15.02.10	**調査担当**	小野・藤原

遺跡の概要　上東遺跡は、足守川河口域に形成された沖積平野に立地する集落遺跡である。弥生時代後期を中心とし、中世までの遺構、遺物が確認されている。調査対象地は倉敷市役所庄支所の北東約400ｍ、四方を住宅地に取り囲まれた水田である。

調査の概要　開発予定地に2×2ｍのトレンチを2か所設定して調査を実施した。トレンチ1では、水田耕作土の下に灰黄色土がみられ、この層を掘り込む小土壙が検出された。残存する深さは20㎝強で、規模は不明である。遺物は出土していないが、弥生時代の可能性がある。その下には薄く堆積した黄灰色砂質土、暗青灰色砂層が続く。遺物としては、いずれの層からも土器類は出土していないが、暗青灰色砂層から木質遺存体が少量出土している。

トレンチ2では、水田耕作土の下には灰黄褐色土、にぶい黄褐色土、灰色砂混じり粘質土、黄灰色粘質土、灰色微砂が順次堆積している。灰黄褐色土層から黄灰色粘質土層にかけて掘り込む遺構が検出された。検出面での直径約60㎝、底径10数㎝程度で、残存する深さは65㎝である。底の灰色粘質土から弥生時代後期の土器、木片が少量出土した。

以上のように、今回の調査では水田耕作土の直下から弥生時代後期の遺構が確認された。遺構の上面は地下げによって削平されており、本来は周囲よりも高かったと推測される。当該地の西隣において平成20年に実施した宅地造成工事に伴う確認調査では明確な遺構は検出されなかったが、擁壁工事の立会調査では、工事区域の東辺において土壙1基が確認されている。これらのことから、今回の調査地一帯には微高地が広がっており、濃密とは言えないまでも弥生時代の活動痕跡が残されていると考えられる。（小野）



トレンチ位置図（S＝1/5,000）

玉島陶中地区（第１次）試掘調査概要（一覧表 No.31）

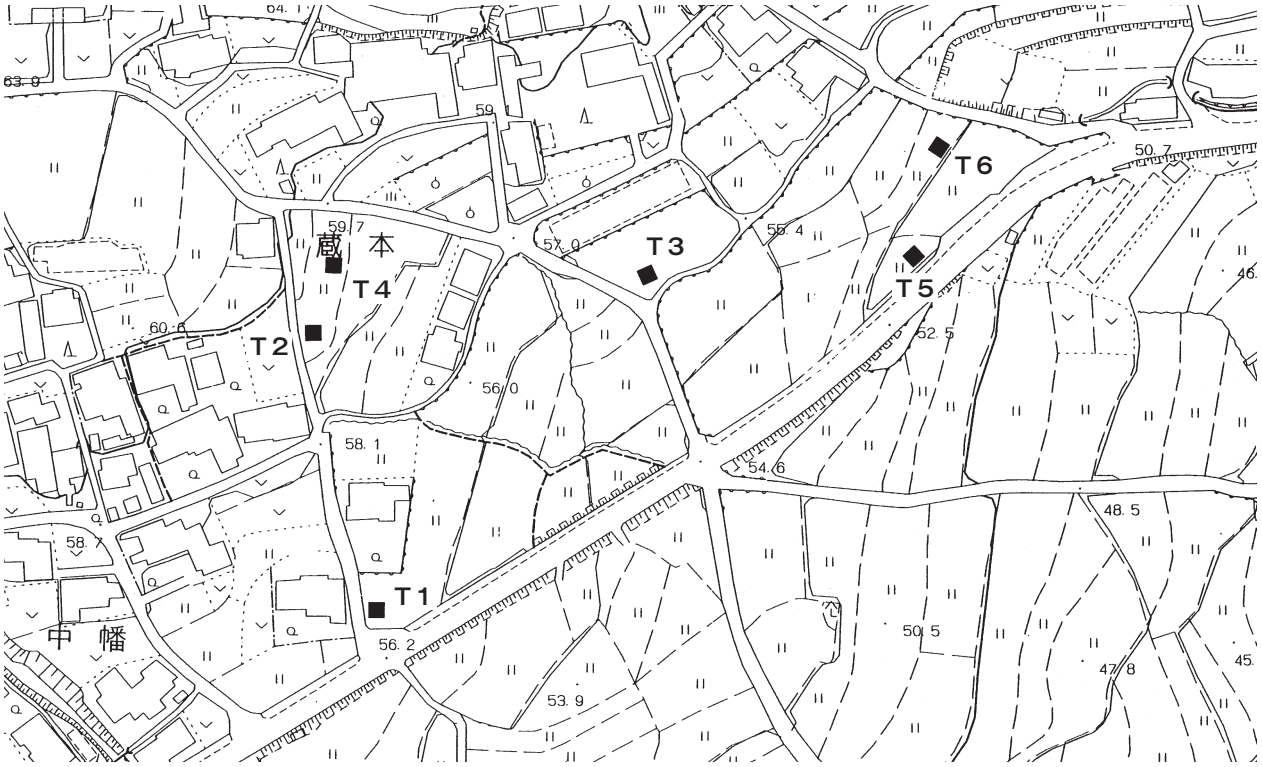
調査位置　玉島陶地内
調査原因　圃場整備事業　　**調査面積**　24㎡
調査期間　15.03.03～15.03.06　　**調査担当**　小野・藤原

調査地の概要　玉島陶地区は、周囲を山に囲まれた盆地状の地形で、中央を北の弥高山から流れ出す真谷川が大きく湾曲しながら東流し、さらに北へ流れを変えて小田川に合流している。周囲の山腹には古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての窯跡が20基以上確認されており、玉島陶古窯跡群と呼ばれている。また、「幡（はた）」・「中幡（なかはた）」といった古代氏族「秦氏」に関係するとも考えられる地名も認められる。しかし、こうした窯を営んだ人々の集落跡などはこれまで確認されていない。この陶地区のほぼ中央にあたる陶中地区において、平成27年度より圃場整備事業を行う計画があり、事前に現地踏査を行った。その結果、事業範囲のほぼ中央に位置する瓦祠が祭られた地点に須恵器や古代の瓦片が散布することが確認されたため、試掘調査を行うこととなったものである。

調査の概要　圃場整備は面積も広く、平成27～31年度までの5か年計画であることから、本年度は第1次として平成27年度事業着手部分についての試掘調査を行った。調査は圃場整備の計画範囲内に2×2mのトレンチ6か所を設定して、地層の断面観察を中心に行った。

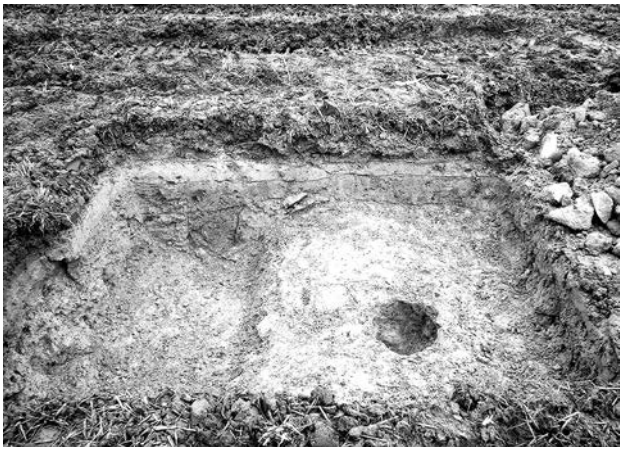
トレンチ１は、平成27年度事業着手範囲南西端の地点に設定した。水田耕作土の下は少量の須恵器片や中世土器片を含む自然堆積層である。さらにその下は人頭大の礫を多く含む層が東に向かって下がっているが、この層から遺物は確認されなかった。

トレンチ２は、トレンチ１から北へ約100m程の水田に設定した。標高59.2mほどに位置し、今回



トレンチ位置図（S=1/2,500）

設定した中では、最も高い地点のトレンチである。水田耕作土・水田床土の下は厚さ20㎝ほどの自然堆積層で、中世土器片等を含んでいる。さらに下は5㎝から人頭大までの礫を多く含む層であるが、この層を掘り込むピット5基を確認した。ピットは直径20～30㎝、深さ30㎝程で、埋土から亀山焼の破片などが出土している。本来はもっと高い位置から掘り込まれたものであり、削平等によって底部のみが残っているものと考えられる。



トレンチ２遺構検出状況

トレンチ3は、今回の調査範囲のほぼ中央に位置する水田に設定した。水田耕作土・水田床土の下は自然堆積層で、わずかに中世土器片が検出された。地表下80㎝からは10㎝大の礫が多く含まれる層であるが、遺物は検出されなかった。

トレンチ4は、トレンチ2で検出された遺構の広がりを確認するため、同じ水田の約20m北に設定した。水田耕作土・水田床土の下の自然堆積層からはわずかに中世土器片が検出された。さらに下は10～20㎝大の礫を多く含む層で、トレンチ2の遺構が確認された層に対応するものと考えられるが、ここでは遺構は検出されなかった。

トレンチ5は、圃場整備計画範囲内を東西に走る道路沿いの水田に設定したもので、今回のトレンチの中では最も標高の低い位置である（標高約52m）。水田耕作土・水田床土の下は自然堆積層で、わずかに須恵器片・中世土器片が検出された。地表下50㎝から始まる10㎝大の礫を含む層からは、遺物、遺構は検出されなかった。

トレンチ6は、計画範囲の北東端に近い水田に設定した。水田耕作土･水田床土の下は自然堆積層、10～20㎝大の礫を多く含む層と続き、最下層は堅くしまった砂質土層となる。他のトレンチとは異なり、ここではどの層からも遺物は検出されず、遺構も確認されなかった。

以上のように圃場整備の計画範囲内に設定した6か所トレンチの内、1か所から遺構が検出され、5か所からは遺物が出土した。トレンチ2で検出された遺構は出土遺物から中世のものと考えられるが、調査範囲が限定されており、性格等は不明である。すぐ北側の山頂（標高約175m）には中世城郭である陶山城跡が立地しており、それとの関連も考えられる。ただ、同じ水田面で北側に設定したトレンチ4で遺構が確認されなかったことや、東側と南側の水田が約1m低いことを考慮すれば、残存する遺跡の広がりは極めて限られたものであると推定される。なお、遺跡名については小字から「門ノ前遺跡」と呼ぶこととする。

試掘調査前には周囲に存在する窯跡を営んだ人々の集落跡の存在を推定していたが、そうしたものは確認されなかった。遺構以外から出土した遺物については、いくつかの須恵器片が古代にまでさかのぼる可能性はあるが、器表面が摩耗した細片が多く、総じてその量は少ない。（藤原）

Ⅴ 寄贈図書一覧（2012.4.1 ～ 2013.3.31）

北海道	
苫小牧市埋蔵文化財調査センター	市内遺跡発掘調査等事業報告書
北海道立埋蔵文化財センター	北海道立埋蔵文化財センター年報 15
斜里町立知床博物館	来運 1 遺跡発掘調査報告書、チャシコツ岬上遺跡発掘調査報告書
宮城県	
多賀城市埋蔵文化財調査センター	多賀城市内の遺跡 1- 平成 23 年度発掘調査報告書 -、多賀城市内の遺跡 2- 平成 25 年度発掘調査報告書 -、桜井館跡ほか
山形県	
（公財）山形県埋蔵文化財センター	埋文やまがた第 53 号・第 54 号
東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科	置賜地域の終末期古墳 7、高畠石の里をあるく
茨城県	
上高津貝塚ふるさと歴史の広場	上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第 19 号、武者塚古墳とその時代、下高津小学校遺跡、下坂田塙台遺跡･坂田塙台古墳群、坂田台山古墳群･下坂田中台遺跡･下坂田貝塚、下坂田中台遺跡、東谷遺跡（第 1 次調査）
筑波大学歴史・人類学専攻	筑波大学 先史学・考古学研究第 25 号
栃木県	
小山市教育委員会	小山市文化財保護調査年報 12・13、市内遺跡Ⅰ、祇園城跡Ⅳ
埼玉県	
吉見町埋蔵文化財センター	町内遺跡 8・9
千葉県	
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館研究報告 第 181 集･第 183 集～第 187 集･第 189 集･第 190 集･第 192 集・第 193 集、国立歴史民俗博物館年報 10
東京都	
宮内庁書陵部	書陵部紀要第 65 号、書陵部紀要第 65 号（陵墓篇）
東京国立博物館	東京国立博物館所蔵 骨角器集成 2 鹿角製刀剣装具編、国宝土偶展
早稲田大学考古学会	古代第 132 号～ 136 号
国学院大学文学部考古学研究室	石倉岱遺跡 2012 年度発掘調査報告書、穂高古墳群 2013 年度発掘調査報告書
明治大学博物館	明治大学博物館年報 2013 年度
明治大学校地内遺跡調査団	年報 9
青山学院大学文学部史学研究室	青山史学第三十二号
慶應義塾大学民族学考古学研究室	慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の戦争遺跡の研究
神奈川県	
横須賀市教育委員会	東京湾要塞跡 猿島砲台跡 千代ヶ崎砲台跡
新潟県	
新潟市文化財センター	史跡古津八幡山遺跡発掘調査報告書
富山県	
小矢部市教育委員会	平成 25 年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報
福井県	
福井市文化財保護センター	河合寄安遺跡発掘調査報告書Ⅰ、市指定史跡伊自良氏館跡、福井市古墳発掘調査報告書Ⅰ、平成 23 年度年報、平成 24 年度年報、福井城跡Ⅸ～ⅩⅤ、寄安遺跡発掘調査報告書Ⅰ、開発遺跡発掘調査報告書Ⅰ
長野県	
長野市埋蔵文化財センター	松代城跡（2）、長野市埋蔵文化財センター所報 No.24、善光寺門前町跡（3）、浅川扇状地遺跡群 長野女子高校校庭遺跡、裾花川扇状地遺跡群 栗田城跡（4）
（一財）長野県文化振興事業団	長野県埋蔵文化財センター年報 30
上田市教育委員会	市内遺跡
松本市教育委員会	県町遺跡、出川南遺跡
辰野町教育委員会	富士浅間遺跡、堀の内遺跡 - 第 2 分冊 -

長野県立歴史館	長野県立歴史館たより vol.79 ～ vol.82、縄文土器展 デコボコかざりのはじまり
愛知県	
新城市教育委員会	新城城跡発掘調査報告書Ⅲ
安城市教育委員会	新編安城市史 10 資料編 考古
南山大学人類学博物館	南山大学人類学博物館紀要第 32 号・第 33 号
豊田市郷土資料館	衣城（金谷城）跡・藪下遺跡、豊田市西部の山茶碗窯跡、挙母城（七州城）跡・衣城（金谷城）跡・稲荷塚古墳・内山畑遺跡、史跡松平氏遺跡 高月院・松平氏館跡保存整備事業報告書、平成 24 年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書、五反田遺跡、寺部遺跡Ⅳ、足助地区工事立会埋蔵文化財調査報告書、豊田市郷土資料館だより No.88 ～ No.91
名古屋大学考古学研究室	名古屋大学文学部研究論集 179
三重県	
松阪市文化財センター	平成 24 年度年報
松阪市教育委員会	立野古墳群発掘調査報告
滋賀県	
守山市立埋蔵文化財センター	下之郷遺跡確認調査報告書Ⅷ、守山市文化財調査報告書、山田町遺跡発掘調査報告書
東近江市埋蔵文化財センター	東近江市埋蔵文化財調査報告書第 22 集・第 23 集・第 25 集、辻岡山瓦窯跡
（公財）滋賀県文化財保護協会	おうみ文化財通信 Vol.20 ～ Vol.23、湖底遺跡が語る湖国二万年の歴史
（公財）栗東市体育協会	上鈎遺跡発掘調査報告書 平成 23 年度 1 次調査、下鈎遺跡発掘調査報告書 平成 24 年度 2 次調査、下鈎遺跡発掘調査報告書 平成 25 年度 1 次調査、栗東市埋蔵文化財調査報告 2012（平成 24）年度年報、岩畑遺跡発掘調査報告書 平成 23 年度 1 次調査、岩畑遺跡発掘調査報告書 平成 24 年度 2 次調査、手原遺跡発掘調査報告書 平成 24 年度 1 次調査、林遺跡発掘調査報告書 平成 23 年度 1 次調査、高野遺跡発掘調査報告書 平成 24 年度 1 次調査、高野遺跡発掘調査報告書 平成 24 年度 2 次調査、上鈎遺跡発掘調査報告書 平成 25 年度 1 次調査
滋賀県教育委員会	琵琶湖東部の湖底・湖岸遺跡、琵琶湖西北部の湖底・湖岸遺跡、琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財保管整理業務事業報告、入江内湖遺跡Ⅲ、弘部野南海道遺跡、新堂前遺跡、星ヶ峰遺跡、狛氏館遺跡、松原内湖遺跡Ⅲ、相谷熊原遺跡Ⅱ・相谷寺前遺跡・相谷下村遺跡、関津遺跡 2、下長遺跡・横江遺跡・大門遺跡
大津市教育委員会	史跡延暦寺境内遺跡発掘調査報告書Ⅱ、滋賀里遺跡発掘調査報告書Ⅲ
米原市教育委員会	佐加太第 39 号・第 40・41 合併号
野洲市教育委員会	平成 26 年度野洲市内遺跡発掘調査年報、平成 26 年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書、平成 26 年度野洲市文化財調査概要報告書
高島市教育委員会	日置前遺跡発掘調査報告書、馬塚古墳発掘調査報告書、高島市内遺跡調査報告書 - 平成 25 年度 -
竜王町教育委員会	竜王町埋蔵文化財発掘調査資料集
甲良町教育委員会	西明寺遺跡
滋賀県立安土城考古博物館	おおてみち第 88 号～第 91 号
愛荘町立歴史文化博物館	名勝金剛輪寺明壽院庭園保存管理計画書
滋賀県立大学人間文化学部	人間文化 35 号～ 38 号
京都府	
（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報第 123 号～第 126 号
綾部市教育委員会	青野南遺跡第 9 次発掘調査報告
京都府教育庁	京都府埋蔵文化財調査報告書（平成 25 年度）
京田辺市教育委員会	三山木遺跡第 6 次発掘調査報告書
京都市文化芸術都市推進室	京都市内遺跡試掘調査報告 平成 25 年度、京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成 25 年度、京都市内遺跡発掘調査報告 平成 25 年度
南丹市教育委員会	南丹市内遺跡発掘調査報告書 5 平成 22 年度、南丹市内遺跡発掘調査報告書 6 平成 23 年度、南丹市内遺跡発掘調査報告書 7 平成 24 年度、南丹市内文化財調

	査報告書 4（平成 21 年度）、南丹市内文化財調査報告書 5（平成 22 年度）、南丹市内文化財調査報告書 6（平成 23 年度）
南丹市立文化博物館	南丹市立文化博物館だより第 10 号、麻田家の三人 - 辨自・鷹司・浩 -、園部藩関係史料 寺社類集 図版編
向日市文化資料館	「向日里人物志」の世界 - 近世乙訓の文化サロン -
綾部市資料館	生まれ育ちたる所にて、あやべの横穴式石室
（公財）京都市埋蔵文化財研究所	長岡京右京三条北辺四坊八町跡・上里北ノ町遺跡、平安京左京北辺四坊一町跡・公家町遺跡、平安京左京八条四坊八町跡・御土居跡、平安京左京五条二坊四町跡、六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡、上京遺跡・室町殿跡、史跡・名勝 嵐山、平安京右京四条二坊四町跡・壬生遺跡、長岡京左京三条四坊六町跡、平安京右京二条二坊十一町・西堀川小路跡・御土居跡、平安京右京三条三坊三町跡・西ノ京遺跡、長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡、平安京典薬寮・御井跡、延勝寺跡・岡崎遺跡、平安京左京八条一坊十六町跡、平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡
京都大学考古学研究室	一乗寺向畑町遺跡出土 縄文時代資料 - 考察編 -
京都橘大学	京都橘大学 歴史遺産調査報告 2013
大阪府	
高槻市立埋蔵文化財調査センター	高槻市文化財年報 平成 24 年度、嶋上遺跡群 38
堺市教育委員会	堺環濠都市遺跡（SKT1029 地点）発掘調査概要報告、平成 24・25 年度市内遺跡発掘・立会調査概要報告、堺環濠都市遺跡（SKT1080 地点）発掘調査概要報告、堺環濠都市遺跡（SKT1098 地点）発掘調査概要報告、堺環濠都市遺跡（SKT1094 地点）発掘調査概要報告、余部日置荘遺跡発掘調査概要報告 -HKS-28・東区高松所在 -、平成 25 年度国庫補助事業発掘調査報告書
（公財）枚方市文化財研究調査会	枚方上之町遺跡Ⅰ、枚方市文化財年報 35 2013 年度分
（公財）八尾市文化財調査研究会	考古資料からみる八尾の歴史、平成 25 年度（公財）八尾市文化財調査研究会事業報告、Ⅰ跡部遺跡（第 42 次調査）・Ⅱ老原遺跡（第 14 次調査）ほか、Ⅰ太田遺跡（第 15 次調査）・Ⅱ太田遺跡（第 16 次調査）ほか、Ⅰ植松遺跡（第 13 次調査）・Ⅱ太田川遺跡（第 3 次調査）ほか、弓削遺跡 第 1 次調査
豊中市教育委員会	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 - 平成 24・25 年度（2012・2013 年度）-、文化財ニュース豊中 No.37、豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 - 平成 26 年度（2014 年度）-、庄内遺跡第 4 次発掘調査報告書、本町遺跡第 41 次発掘調査報告書
枚方市教育委員会	枚方市文化財分布図 平成 24 年度改訂版、特別史跡百済寺跡 平成 24 年度確認調査概要、枚方市埋蔵文化財発掘調査概要 2012、枚方市埋蔵文化財発掘調査概要 2013、大阪府史跡 田口山遺跡、特別史跡百済寺跡 平成 25 年度確認調査概要
富田林市教育委員会	古代のとんだばやし、平成 25 年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書
貝塚市教育委員会	貝塚御坊願泉寺と平成の大修理、貝塚市文化財年報 9 ～ 12、水間寺の歴史と寺宝
泉佐野市教育委員会	上町遺跡、長滝薬師遺跡、上町東遺跡、上之郷遺跡、平成 25 年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要
泉南市教育委員会	泉南市遺跡群発掘調査報告書ＸＸＸＩ
交野市教育委員会	平成 25 年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要
池田市教育委員会	池田市埋蔵文化財発掘調査概報 2013 年度
吹田市教育委員会	五反島遺跡の発掘調査、北泉遺跡発掘調査報告書、平成 25（2013）年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
四條畷市教育委員会	北口遺跡・讃良郡条理遺跡発掘調査報告書、四條畷市文化財調査年報第 1 号
河内長野市教育委員会	三日市北遺跡Ⅳ、河内長野市埋蔵文化財調査報告書 33
大阪府立弥生文化博物館	弥生文化博物館要覧 - 平成 24 年度 -
大阪府立近つ飛鳥博物館	館報 17、大和王権と葛城氏、アスカディア・古墳の森 vol.40 ～ vol.41、箸墓以降、出土品が語る海と「おおさか」、歴史発掘おおさか 2014
吹田市立博物館	博物館だより No.57 ～ No.61、館報 14、一片の瓦から

大阪府立狭山池博物館	大阪府立狭山池博物館研究報告 8
大阪歴史博物館	大阪歴史博物館年報 平成 25 年度、なにわ歴博カレンダー No.52
四條畷市立歴史民俗資料館	まじないと人
大阪大学埋蔵文化財調査室	待兼山遺跡Ⅴ
大阪大谷大学	志学台考古第 14 号、文化財研究第 14 号
兵庫県	
姫路市埋蔵文化財センター	姫路城城下町跡 姫路城跡第 302・308・313 次発掘調査報告書、丁・柳ヶ瀬遺跡発掘発掘調査報告書、坂本城跡第 18 次発掘調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 311 次発掘調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 309 次発掘調査報告書、三宅遺跡発掘調査報告書、八代山古墳群 6 号墳確認調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 300 次発掘調査報告書、山所南遺跡発掘調査報告書、石ツミ遺跡第 1 次発掘調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 289 次発掘調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 286 次発掘調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 296 次発掘調査報告書、和久遺跡 第 9 次発掘調査報告書、豊沢遺跡 第 4 次発掘調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 290 次発掘調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 281 次発掘調査報告書、姫路城城下町跡 姫路城跡第 278 次発掘調査報告書、小山遺跡 第 6 次発掘調査報告書
神戸市教育委員会	住吉宮町遺跡第 50 次発掘調査報告書、兵庫津遺跡第 57 次発掘調査報告書、深江北町遺跡第 12・14 次埋蔵文化財発掘調査報告書、北青木遺跡第 7 次発掘調査報告書、昭和のくらし・昔のくらし その 8、神戸市埋蔵文化財分布図 平成 26 年度版、平成 23 年度 神戸市埋蔵文化財年報、唐崎城跡・尼崎学園古墳群発掘調査報告書、古川町遺跡第 2 次発掘調査報告書、下山手遺跡第 6 次発掘調査報告書、楠・荒田町遺跡第 53 次発掘調査報告書、楠・荒田町遺跡第 54 次発掘調査報告書、神戸の埴輪大集合、大阪湾防備と和田岬砲台、神戸発掘最前線、神戸の指定文化財 - 考古資料 -、発掘された骨たち - 人と動物 -
伊丹市教育委員会	有岡城跡発掘調査報告書ⅩⅧ
芦屋市教育委員会	平成 15 年度国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、平成 20 年度国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、会下山遺跡確認調査報告書、平成 21 年度国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、平成 16・17 年度国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、平成 22 年度国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、平成 8 年度国庫補助事業（1）芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、平成 8 年度国庫補助事業（2）芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書、平成 23 年度国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書
赤穂市教育委員会	名勝田淵氏庭園保存管理計画策定報告書、有年考古 創刊号、名勝旧赤穂城庭園二之丸庭園整備概要報告書 2
尼崎市教育委員会	尼崎市内遺跡 発掘調査等
尼崎市教育委員会	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成 20 年度（2）・21 年度
姫路市立城郭研究室	特別史跡姫路城跡石垣修理工事報告書（9）、城郭研究室年報 vol.24
太子町教育委員会	平成 25 年度埋蔵文化財調査年報
多可町教育委員会	鍛冶屋遺跡
神戸市立博物館	研究紀要第 30 号
赤穂市立歴史博物館	歌川国貞の忠臣蔵浮世絵
兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館ＮＥＷＳ vol.13 ～ vol.15、平成 23・24 年度埋蔵文化財調査年報、横入遺跡、神子曽遺跡・石田遺跡・才門遺跡・曽根遺跡、鐘原遺跡、堂垣内遺跡・小坂遺跡、坂本・土井の畑遺跡、平福御殿屋敷跡、喜多垣遺跡、老ノ内遺跡、大坪遺跡・大明神遺跡、西柄遺跡・宮ノ前遺跡、有年原・クルミ遺跡、井垣城跡、福島・長町遺跡、明石城下町町屋跡、豊地城跡
（公財）兵庫県まちづくり技術センター	ひょうごの遺跡第 89 号～第 91 号
播磨町郷土資料館	館報 25、ふるさとの先覚者 No.11
大手前大学史学研究所	大手前大学史学研究所紀要第 9 号、文堂古墳、図録 文堂古墳

奈良県	
桜井市立埋蔵文化財センター	50㎝下の桜井、大福遺跡を歩くⅡ、桜井市内遺跡発掘調査報告書 -2012 年度 -、魅惑の玉
奈良文化財研究所	埋蔵文化財ニュース No.154 ～ No.157
橿原市教育委員会	藤原京跡Ⅲ - 左京一・二坊六・七坊 -、黒田池遺跡、藤原京跡Ⅳ - 右京十二条坊一坊 -、史跡植山古墳、菖蒲池古墳、藤原京跡 - 右京十一・十二条三坊、右京十二条三・四坊 -、観音寺本馬遺跡
宇陀市教育委員会	宇陀市内遺跡発掘調査概要報告書 2012 年度、鬼面百相
田原本町教育委員会	田原本町文化財調査年報 22、弥生遺産Ⅱ～唐古・鍵遺跡の木製品～
斑鳩町教育委員会	斑鳩町内遺跡発掘調査概報平成 16 年度、斑鳩町内遺跡発掘調査概報平成 18 ～ 19・21 ～ 22 年度、斑鳩文化財センター年報 第 3 号、斑鳩藤ノ木古墳の銅鏡展
上牧町教育委員会	上牧久渡古墳群発掘調査報告書
帝塚山大学考古学研究所	那賀郡の軒瓦に見られる東アジアとの交流、帝塚山大学考古学研究所研究報告ⅩⅥ
桜井市纒向学研究センター	纒向学研究第 2 号、纒向学研究センター年報 第 1 号、纒向考古学通信 Vol.6
（公財）元興寺文化財研究所	元興寺文化財研究所研究報告 2013
天理大学附属天理参考館	天理参考館報第 27 号
天理大学考古学・民俗学研究室	古事第 18 冊
奈良大学文学部文化財学科	文化財学報第三十二集 三宅久雄先生退職記念論集
和歌山県	
（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団	太田・黒田遺跡第 61 次発掘調査報告書
（公財）和歌山県文化財センター	地宝のひびき - 和歌山県内文化財調査報告会資料集 -、神前遺跡、立野遺跡、六十谷遺跡、公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2013、歩いて知るきのくに歴史探訪 藤白神社から琴ノ浦温山荘園までを巡る、シンポジウム 熊野三山の考古学、公開シンポジウム 和歌山城と城下町の風景 - 発表資料集
橋本市教育委員会	東家遺跡・東家館跡発掘調査報告書
有田川町教育委員会	平成 25 年度有田川町埋蔵文化財調査年報、有田川の地宝
鳥取県	
鳥取県埋蔵文化財センター	調査研究紀要 5、青谷上寺地遺跡 13、青谷上寺地遺跡の骨角器、青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2013
（公財）鳥取市文化財団	常松大谷遺跡（丘陵部）、善田傍示ヶ崎遺跡
鳥取県教育委員会	東桂見遺跡、良田平田遺跡
（一財）米子市文化財団	埋蔵文化財調査室年報 14、米子市内遺跡発掘調査報告書、米子平野の考古学資料 Ⅰ～Ⅵ 、米子市埋蔵文化財センター・米子市福市考古資料館年報第 2 号・第 3 号、埋蔵文化財調査室年報 1、清水川御崎前遺跡・福成大坪上遺跡、野上城跡・三部長龍寺谷タタラ跡、境北井埒遺跡、清水川六反田遺跡
大山町教育委員会	町内遺跡発掘調査報告書Ⅵ
八頭町教育委員会	郡家西向田遺跡Ⅱ発掘調査報告書、平成 24・25 年度町内遺跡発掘調査報告書、福本 70 号墳発掘調査報告書、下モ山古墳群Ⅲ・上峰寺遺跡群発掘調査報告書、下モ山古墳群Ⅱ・市場井毛遺跡発掘調査報告書
鳥取県立むきばんだ史跡公園	妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2014、平成 25 年度とっとりの文化遺産魅力発掘プロジェクト事業報告書
島根県	
島根県埋蔵文化財調査センター	ドキ土器まいぶん No.55 ～ No.57、高原遺跡（2 区）、鈴見 B 遺跡 2 区、松江城三之丸跡 松江城下町遺跡（殿町 128）、埋蔵文化財調査センター年報 23
（公財）松江市スポーツ振興財団	埋蔵文化財課年報〈17〉平成 24 年度、城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書 3・4
益田市教育委員会	中世今市遺跡
浜田市教育委員会	島根県浜田市遺跡地図Ⅵ・浜田市旭町重富試掘調査
出雲弥生の森博物館	出雲弥生の森博物館研究紀要第 4 集、『国富中村古墳のお葬式』記録集

岡山県	
岡山県古代吉備文化財センター	所報吉備第 57 号・第 58 号、百間川原尾島遺跡 1、瀬戸内市とその周辺
津山弥生の里文化財センター	津山市内遺跡調査報告書 平成 22 ～ 24 年度、津山弥生の里第 21 号、津山城だより No.18
岡山市埋蔵文化財センター	史跡造山古墳第一、二、三、四、五、六古墳保存管理計画書、千足古墳、南坂 1 号墳・南坂遺跡、塩納遺跡Ａ地点・勘定口古墳群、大森遺跡、岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第 6 号、岡山市埋蔵文化財センター年報 13
井原市文化財センター	井原市文化財センター「古代まほろば館」年報 5
岡山県教育委員会	埋蔵文化財関係統計資料、『適正な埋蔵文化財行政を担う体制等の構築について』（報告）、岡山県埋蔵文化財報告 44
備前市教育委員会	運ぶ～やきものは誰が商い、誰が運ぶのか～、備前市植物目録、備前市歴史文化基本構想
高梁市教育委員会	史跡備中松山城跡 大手門跡・二の平櫓跡発掘調査報告書、史跡備中松山城跡中太鼓の丸跡・下太鼓の丸跡保存整備工事報告書
岡山県立博物館	大地からの便り - 発掘調査からみた吉備の歴史 -
津山郷土博物館	津博 No.80 ～ No.82、津山松平藩町奉行日記二十二、津山市史だより創刊号、津山の商家が伝えた文人画、平成 25 年度津山郷土博物館年報
倉敷市立自然史博物館	倉敷市立自然史博物館報 23（平成 25 年度）
岡山県立美術館	美術館ニュース第 104 号～第 107 号
岡山シティミュージアム	岡山びと第 8 号
岡山大学文学部考古学研究室	小造山古墳・小坑古墳測量調査報告書、天狗山古墳
岡山大学大学院社会文化科学研究科	津倉古墳測量調査概報
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 No.52・No.53、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要 2013、津島岡大遺跡 21- 第 33 次調査 -
岡山理科大学 図書館	自然科学研究所研究報告第 39 号、岡山理科大学紀要第 50 号Ａ自然科学、岡山理科大学紀要第 50 号Ｂ人文・社会科学
岡山理科大学 地理・考古学研究室	備前邑久窯跡群の研究、半田山地理考古第 2 号、瀬戸内海を科学する Part1
くらしき作陽大学	小造山古墳・小坑古墳測量調査報告書
岡山市立オリエント美術館	岡山市立オリエント美術館研究紀要 28
倉敷市文書館（アーカイブス）研究会	倉敷の歴史第 24 号
岡山県遺跡保護調査団事務局	調査団ニュース 43 号・44 号
高梁川流域連盟	高梁川 72
広島県	
（公財）広島県教育事業団	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（30）・（31）・（34）・（39）～（44）、ひろしまの遺跡第 112 号・第 113 号、年報 11、平成 25 年度ひろしまの遺跡を語る 城郭研究最前線 記録集、葛城跡、備後の国から出雲の国へ、国道 313 号道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（3）
広島県教育委員会	平成 24 年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書
東広島市教育委員会	鏡山城跡発掘調査報告書、福成寺旧境内遺跡発掘調査報告書、行摠 1 号遺跡発掘調査報告書、乃美 1 ～ 4 号遺跡発掘調査報告書、横田 2 号遺跡・福原 2 号遺跡発掘調査報告書、友松 2・3 号遺跡発掘調査報告書、東ひろしまの遺跡 Vol.1、史跡安芸国分寺跡整備事業報告書、阿岐のまほろば合冊（Vol.1 ～ 45）
三次市教育委員会	松尾徳市遺跡・県史跡若宮古墳
福山市教育委員会	福山市文化財年報 42・43、福山市内遺跡発掘調査概要Ⅷ
庄原市教育委員会	只野原 2 号遺跡・只野原 4 号遺跡、庄原市文化財だより 第 3 号
尾道市教育委員会	尾道市内遺跡、発掘 尾道遺産 御調の歴史と遺跡
広島県立歴史博物館	広島県立歴史博物館ニュース第 98 号、ふくやま草戸千軒ミュージアムニュース第 100 号・第 101 号
広島県立歴史民俗資料館	年報 第 31 号 - 平成 23・24 年度 -
広島大学文学部考古学研究室	帝釈峡遺跡群発掘調査室年報ＸＸⅧ

広島大学総合博物館	広島大学埋蔵文化財調査研究紀要 第5号
山口県	
山口県埋蔵文化財センター	東禅寺･黒山遺跡Ⅷ、中恋路遺跡2、下津令遺跡1（沖ノ下1地区･西尾崎1地区）、堀川遺跡・平井遺跡・三反地遺跡・水奥遺跡・西河内遺跡・中屋B遺跡、陶けん第27号
下関市立考古博物館	青銅器と弥生人のまつり、下関市立考古博物館年報19
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	土井ヶ浜遺跡
山口大学人文学部考古学研究室	第10回古代武器研究会発表資料集、古代武器研究 vol.10、第11回古代武器研究会発表資料集
山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学埋蔵文化財資料館年報 - 平成22年度 -、山口県大学ＭＬ（Museum・Library）連携事業報告、てらこや埋文2014年春号
徳島県	
（公財）徳島県埋蔵文化財センター	南蔵本遺跡
徳島市教育委員会	徳島市埋蔵文化財発掘調査概要21
香川県	
香川県埋蔵文化財センター	西末則遺跡Ⅴ、高松茶臼山古墳、讃岐国府跡発掘調査概報、香川県埋蔵文化財センター年報 平成25年度、多肥北原西遺跡、太田原高州遺跡1、旧練兵場遺跡Ⅴ、兀塚遺跡
香川県教育委員会	香川県文化財年報 平成24年度、埋蔵文化財試掘調査報告ＸＸⅥ
丸亀市教育委員会	丸亀市内遺跡発掘調査報告書第9集～第13集、史跡丸亀城跡野面積み石垣修理工事調査報告書、飯野西分広定遺跡
さぬき市教育委員会	さぬき市内遺跡発掘調査報告書、本村遺跡発掘調査報告書
三豊市教育委員会	橘城・紫雲出山遺跡・山本町大野地区・弥谷寺遍路道、宗吉かわらの里展示館年報3、不動の滝遺跡（奥池）発掘調査報告書
観音寺市教育委員会	大野原古墳群Ⅰ（椀貸塚古墳・平塚古墳・角塚古墳）
香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアムニュース vol.25 ～ vol.28
愛媛県	
（公財）愛媛県埋蔵文化財センター	愛比売 平成25年度年報、紀要愛媛 第10号、大洲城三之丸侍屋敷跡、今若遺跡、上分西遺跡4次、上分西遺跡5次、経田遺跡
今治市教育委員会	高虎の城づくり～瀬戸内を支配した海城～、史跡 今治城跡 - 第6次調査 -、朝倉下下経田遺跡 - 第2次調査 - 高橋下佐夜遺跡、市内遺跡試掘確認調査報告書（平成24年度 個人民間開発に伴う調査）、市内遺跡試掘確認調査報告書（平成24年度 市公共事業に伴う調査）、史跡 能島城跡 平成23・24年度郭Ⅵ調査報告書
松山市教育委員会	樽味四反地遺跡 -19次・20次調査 -、樽味四反地遺跡 -17次・18次調査 -、桑原高井遺跡3次調査・東本遺跡8次調査・東野お茶屋台遺跡8次調査、樽味四反地遺跡 -14次･16次調査 -、樽味高木遺跡 -12次･13次調査 -、樽味四反地遺跡 -12次･13次調査 -、来住町遺跡
鬼北町教育委員会	鬼北地域に見る国境の戦国社会
東温市立歴史民俗資料館	向井古墳 - 第2次調査 -
愛媛大学埋蔵文化財調査室	文京遺跡Ⅶ -3、文京遺跡Ⅶ -4、愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 -2012年度 -
高知県	
（公財）高知県文化財団	高知県埋蔵文化財センター年報第23号、須江上段遺跡 - 松ノ本地区、須江上段遺跡 - ヨコキ地区、徳王子広本遺跡、史跡 高知城跡、弘人屋敷跡、天神溝田遺跡Ⅱ、関遺跡、東野土居遺跡Ⅰ
高知県教育委員会	高知県埋蔵文化財年報11、埋文こうち第27号
南国市教育委員会	西野々遺跡
高知市教育委員会	御手洗遺跡
高知県立歴史民俗資料館	高知県立歴史民俗資料館年報 No.22、岡豊風日第85号～第88号
福岡県	
小郡市埋蔵文化財調査センター	上岩田遺跡Ⅴ、小板井屋敷遺跡5、大板井遺跡25、大板井遺跡26・27、西島遺

	跡 8、福童町遺跡、上岩田遺跡 14、三沢遺跡、上岩田遺跡Ⅵ〈古代総集編〉
久留米市埋蔵文化財センター	久留米市文化財保護課年報 vol.9、平成 25 年度久留米市内遺跡群、下馬場古墳 - 第 2・3 次発掘調査報告 -、田主丸大塚古墳Ⅱ - 第 6・7 次調査 -、筑後国府跡 - 平成 25 年度発掘調査報告 -、京隈侍屋敷遺跡 - 第 26 次発掘調査報告 -、二本木遺跡 - 第 30 次発掘調査報告 -、京隈侍屋敷遺跡 - 第 27 次発掘調査報告 -、筑後国府跡 - 第 274 次発掘調査報告 -、筑後国府跡（立石土塁）- 第 272 次発掘調査報告 -、庄島侍屋敷遺跡 - 第 9 次発掘調査報告 -、久留米城下町遺跡 - 第 23 次発掘調査報告 -、櫛原侍屋敷遺跡 - 第 18 次発掘調査報告 -、久留米城下町遺跡（通町十丁目）- 第 22 次発掘調査報告 -、櫛原侍屋敷遺跡 - 第 17 次発掘調査報告 -
福岡市教育委員会	福岡市埋蔵文化財センター年報第 32 号、福岡市埋蔵文化財年報 vol.27、麦野 C 遺跡 8、老司 A 遺跡、元岡・桑原遺跡群 23、福岡城祈念櫓跡、史跡鴻臚館跡、比恵 66 ～ 68、板付 12、井尻 B 遺跡 21 ～ 24、有田・小田部 53・54、史跡女原瓦窯跡、徳永 B 遺跡 2・3、徳永 A 遺跡 6、谷遺跡 3、大平寺遺跡 1、笹原 3、今宿五郎江 16・17、大塚遺跡 7、原遺跡 19、博多 146・147、斜ヶ浦瓦窯跡 2、長尾遺跡 2、那珂 69、松木田 4・5、藤崎遺跡 19、桧原遺跡 3
北九州市教育委員会	八旗神社古墳群、高津尾遺跡 28 区、重住遺跡第 2 地点、大門遺跡第 5 地点
大野城市教育委員会	乙金地区遺跡群 8 ～ 11、水城跡 2、瑞穂遺跡 4、薬師の森遺跡、原ノ畑遺跡 2、川原遺跡 3、上園遺跡 3
筑紫野市教育委員会	永岡地区遺跡確認調査
豊前市教育委員会	大西遺跡・下大西遺跡、永久笠田遺跡、国史跡求菩提山 北谷・中谷坊跡 / 鬼石坊、鬼木鉾立遺跡・久路土樋掛遺跡
うきは市教育委員会	生葉北遺跡 2・女塚遺跡
（公財）北九州市芸術文化振興財団	三郎丸遺跡第 3 地点 1 ～ 4、下石田中尾遺跡、瀬板遺跡第 2 地点、水町遺跡第 5 地点、潤崎遺跡第 10 地点、上ノ原遺跡第 2 地点・郷屋遺跡第 3 地点、京町遺跡第 10 地点、北方遺跡第 13 次調査、城野遺跡 10、愛宕山横穴墓群 1、加用遺跡第 2 地点、山田遺跡 3、研究紀要 - 第 28 号 -、埋蔵文化財調査室年報 30
筑前町教育委員会	若宮古墳群、宮ノ前遺跡 A・柏木宮ノ元遺跡
須恵町教育委員会	筑前高鳥居城跡Ⅱ
北九州市立自然史・歴史博物館	邪馬台国が見える‼ 古代日本の原風景、北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類歴史第 11 号
九州歴史資料館	九歴だより No.39、九州歴史資料館研究論集 39
粕屋町立歴史資料館	内橋坪見遺跡 3 次、内橋鏡遺跡
佐賀県	
佐賀県教育委員会	佐賀県の中近世城館 第 3 集 各説編 2
佐賀市教育委員会	貝と骨からわかる縄文人の素顔 - 貝塚に残されたもの -、佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 -2011 年度 -、高尾井手遺跡 -1 区の調査 -、春日丘遺跡 -9 区・10 区の調査 -
唐津市教育委員会	唐津城跡（Ⅶ）、唐津市内遺跡確認調査（30）、田中窯跡、末蘆国遺跡群 総括報告書
神埼市教育委員会	市内遺跡確認調査概要報告書Ⅵ、志波屋二本松（乙）遺跡 3 区・伏部大石遺跡 3 区
長崎県	
佐世保市教育委員会	市内遺跡発掘調査報告書、竹辺遺跡
雲仙市教育委員会	佃遺跡Ⅱ、雲仙市の埋蔵文化財について～瑞穂町伊古遺跡の発掘調査～、小路遺跡
熊本県	
宇土市教育委員会	宇土城跡（西岡台）ⅩⅡ
熊本高等専門学校	天草石工の活動を通じた環不知火海の歴史と文化
大分県	
中津市教育委員会	中津城跡下町遺跡 18 次調査、中津城跡下町遺跡 11 次調査、佐知遺跡高原地点、

	中津城跡遺跡・寺町、長者屋敷官衙遺跡・中近世城館確認調査・中津城跡 25 次調査・市内試掘確認調査
宇佐市教育委員会	別府遺跡群 2・3、市内遺跡発掘調査概報 21・22、史跡法鏡寺廃寺跡保存管理計画書、史跡法鏡寺廃寺跡保存整備基本構想
宮崎県	
宮崎県埋蔵文化財センター	岡遺跡（第 16 次調査）・馬込遺跡第 2 地点、上三輪小切畑第 1 遺跡、向原中尾第 2 遺跡（第 3 次調査）・向原中尾第 5 遺跡・向原中尾第 6 遺跡、置県 130 年記念埋蔵文化財資料活用推進事業報告書、埋蔵文化財通信ひむか第 16 号、宮崎県埋蔵文化財センター年報第 18 号、駄小屋遺跡、みやざき発掘 100 年 - いにしえの「道」と交流 -、鍋倉第 2 遺跡、戸崎城跡
宮崎市教育委員会	下鶴遺跡、宮ヶ迫遺跡、生目古墳群Ⅳ、下北方塚原第 3 遺跡、瓜生野小学校校庭遺跡
都城市教育委員会	真米田遺跡・七日市前遺跡、川原谷出水遺跡、国指定史跡 大島畠田遺跡～平安時代の居宅跡～、都城市内遺跡 8
鹿児島県	
鹿児島県立埋蔵文化財センター	埋文だより第 64 号～第 66 号
（公財）鹿児島県文化振興財団	平成 26 年度 要覧、鹿児島の遺跡 第 4 号～第 6 号
霧島市教育委員会	園田遺跡
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	脇田亀ヶ原遺跡 桜ヶ丘団地Ｂ - 4 ～ 6 区ほか、鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）
その他	
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	埋蔵文化財関係統計資料、公立埋文協会報第 52 号・第 53 号
文化環境研究所	文環研レポート第 33 号・第 34 号、カルチベイト No.42・No.43
原田昌浩	五塚原古墳 第 4 次発掘調査概報
国際縄文学協会	JOMON vol.3
第一学習社	グローバルワイド最新世界史図表、ダイアローグ世界史図表
（株）山川出版社	山川ビジュアル版日本史図録
図書出版樹林舎	倉敷・総社今昔写真集
書肆亥工房	吉備線各駅ぶらり散策
ナカシャクリエイティブ株式会社	朝日遺跡第 21 次発掘調査報告書
（有）京都平安文化財	伏見城跡・桃陵遺跡

附　編

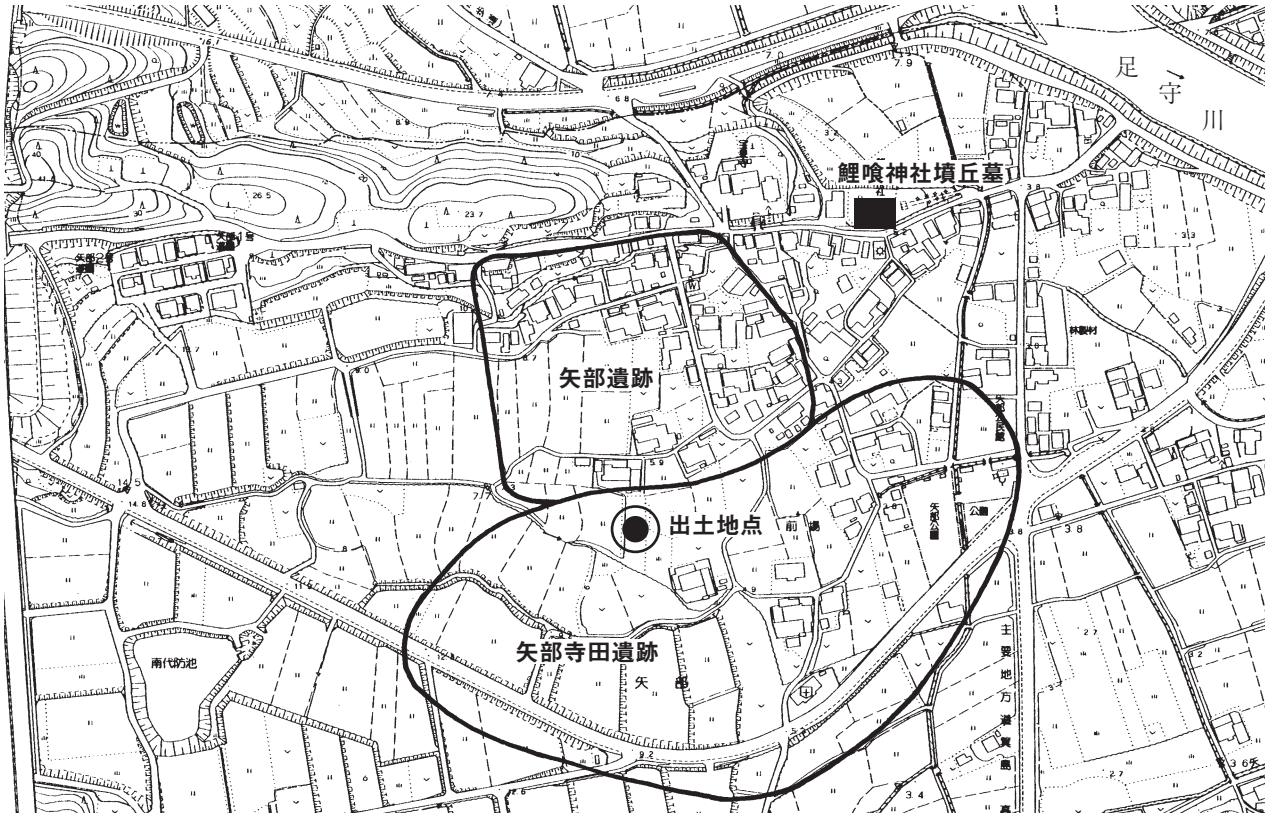
矢部出土の竜形土製品

竜形土製品は昭和36年（1961）に倉敷市矢部の多田宣三氏によって発見された。自宅前の水田をマスカット温室にするために地下げしていた時のことであるという。その後、同時に出土した土器とともに倉敷市立庄中学校へ預けられ、長く同校資料室に保管されていたが、平成11年（1999）に新聞に取り上げられたことから一般に知られるようになったものである。当時、国立歴史民族博物館考古研究部長であった春成秀爾氏は、記事の中でこれを弥生時代の竜形土製品であるとし、その後の著書でも紹介している[1]。なお、本土製品はその貴重性を考慮し、管理を徹底する必要があることから、現在は倉敷埋蔵文化財センターにおいて保管している。

出土地の概要

土製品の出土した倉敷市矢部地区は、西には標高197mの日差山が控え、南と北にはその日差山山塊から延びる低丘陵があり、東側に向かって開けたやや広い谷状の地形である。東側には谷の入口をふさぐ形で足守川が南流しており、弥生時代から古墳時代頃まではこの付近まで、海が入り込んでいたと考えられている。

出土したとされる地点は矢部遺跡のすぐ南側にあたり、現在の矢部寺田遺跡の範囲内である。矢部寺田遺跡は、市道建設工事に伴い昭和56年（1981）に行われた試掘調査によりその存在が明らかとなった遺跡である[2]。調査では、古墳時代初頭を中心に縄文時代晩期や弥生時代中期の遺構・遺物が確認されている。古墳時代初頭の遺構としては竪穴式住居や大溝などがあり、特に大溝からは亀川上層式



出土地位置図（S＝1/2,500）

に相当する土器とともに盤状木製品や木製梯子が出土している。さらに出土地点北東の丘陵先端には鯉喰神社墳丘墓、南の王墓山丘陵上には楯築遺跡もあり、吉備を代表する二つの弥生墳丘墓に近接してもいる。なお、出土地点のすぐ北側に位置する矢部遺跡は古代山陽道の津峴駅家跡とされ、 奈良時代の瓦片等が出土している[3]。

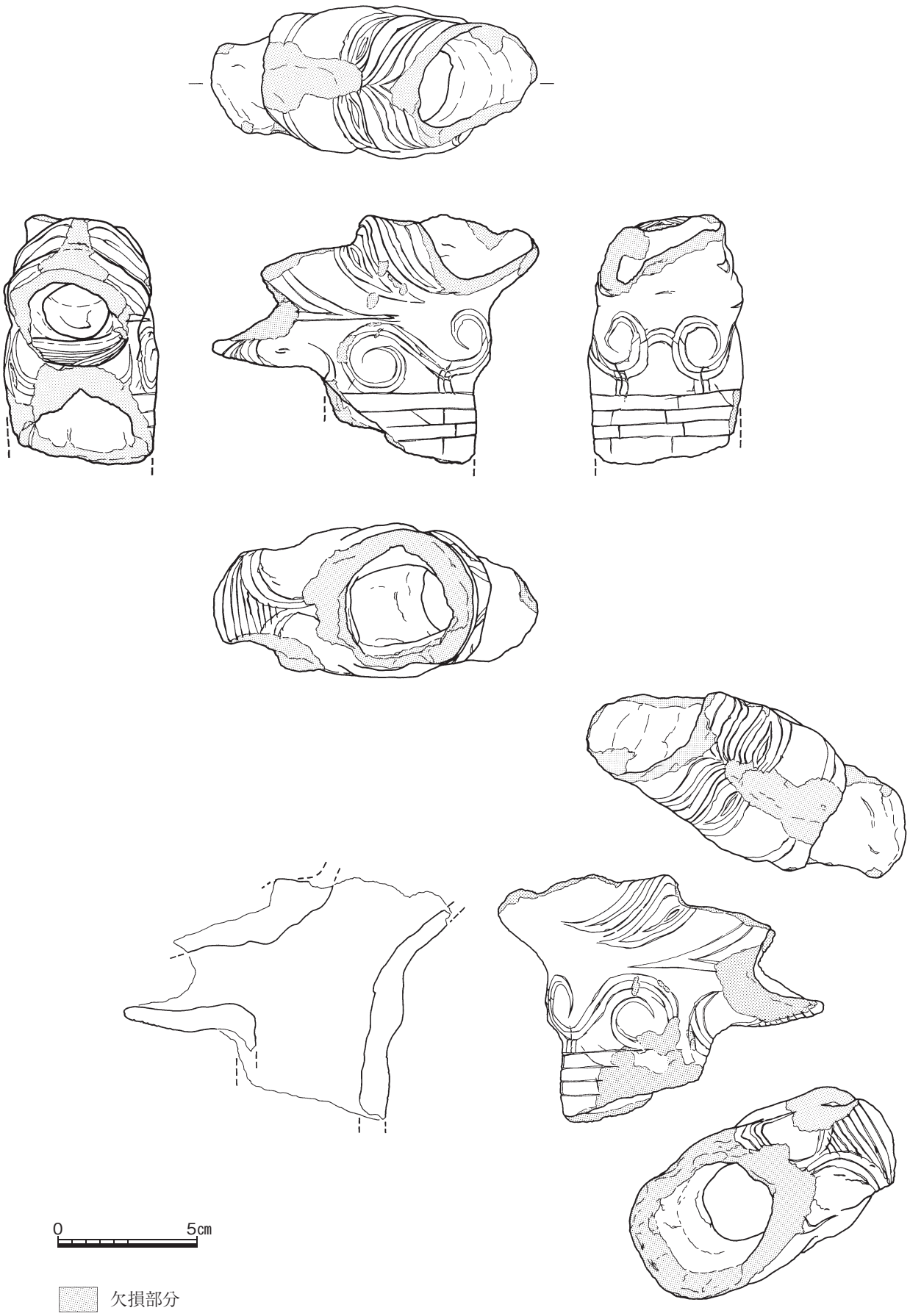
土製品の概要

土製品は欠損部分が多く、全体形は不明であるが、線刻で表現された目やぽっかり開いた口などから何らかの動物の頭部をかたどったものであることは一目瞭然である。竜は空想上の生き物であるので、その姿は想像することしかできないが、馬や牛などの実在の動物と言うよりは、想像上の竜が最も近いであろうか。なお、表面には「S.37.1.1　多田宣三氏　S.36.12. 矢部字畑出土」と墨書きされている。この墨書きは土製品を預かった学校関係者が書いたものと思われ、昭和36年12月が発見の時期であり、翌年すぐに中学校へ持ち込まれたことがわかる。

土製品の残存部分は高さ9.0㎝、幅5.6㎝、頸部直径約5.0㎝である。成形は粘土紐の巻き上げによって行われており、内面にその痕跡が残っている。また、頸部も粘土紐の接合部で剥離している。器表面は丁寧なナデ調整が行われている一方、内面には指の圧痕や器壁の薄い部分に粘土を貼り付けた痕跡も残っている。器表面の色調はにぶい黄橙色（10YR7/3）で、胎土には0.5～1㎜大の長石・石英・赤色粒を含んでいる。焼成は良好と言ってよいだろう。なお、頭頂部と口にあたる部分が開口していたと考えられることから、竜形土器と呼ぶほうが適切かもしれない。

最も特徴的なのはその目であり、眼窩が大きくくぼみ、四重の線刻によって表現されている。瞳の表現はない。目頭は鼻部の剥離に伴って失われているが、目尻は鋭く後方に向かって尖っている。眼窩上隆起の上にやはり線刻で表現されているのは眉と考えられる。線刻は四重で、眉根は目と目の間に向かって収束し、眉尻は目尻と同様に鋭く後方に向かって尖っている。頭頂部は先述の通り開口していたと推定されるが、全周を欠損しており、角やたてがみなどの表現は確認できない。鼻部は剥離してしまっているが、剥離痕跡に鼻翼の膨らみが見て取れる。また、鼻翼から伸びる三本の線刻は頬で鋭く折り返して口唇部に繋がるようである。髭を表現していると考えられるが、口唇部は下顎部分を除いて欠損しており、明確でない。かろうじて残っている下顎部分については、口唇部は丸くおさめられており、牙や歯の表現は確認できない。口の内部についても舌など特別な表現はない。顎の下側には頸部から前方に向かって開く撥形の線刻が施されている。撥形の両側縁は各三本の線刻で縁取られ、その内側は九本の線刻によって充填されている。両側縁の線刻は口唇部を経て、鼻部から続く線刻に接続する可能性もあるが、剥離により確認できない。また、頸部に向かっては一度、下顎と頸との境で収束し、その後再び左右に広がるように思われるが、やはり欠損のため確認できない。その線刻の先端は口に向かって反り返っている

両頬から後頭部にかけて刻まれたＳ字状文も大きな特徴である。厳密にいうと、右頬側がＳ字状文で、左頬側が逆Ｓ字状文となる。Ｓ字は三本の線刻で表現され、左右とも頬側の円弧がやや大きく、巻込みもきつい。その下端は頸部の線刻に接している。さらにくびれ部よりやや後頭部の円弧に近い部分からは三本の線刻がのびて頸部の線刻につながっている。また、後頭部側の左右の円弧も三本の弧を描く線刻によって結ばれている。



竜形土製品実測図（S＝1／2）

左側面

右側面

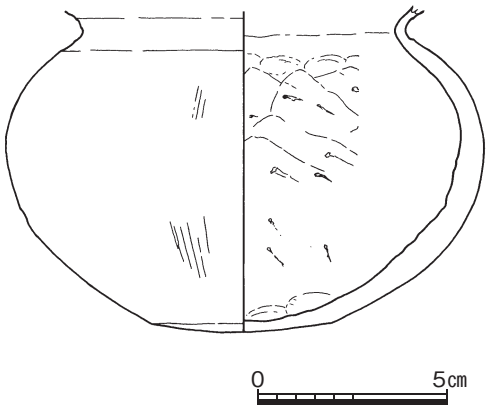
正面

後面

下側

頸部には四本の平行線が巡っており、その間にも互い違いに線刻が施されている。これらは鱗を表現したものである可能性がある。互い違いの線刻については、左側のものは逆Ｓ字状文のくびれ部から延びる線刻に繋がることを意識して刻まれているようであるが、右側のものはＳ字状文のくびれ部から延びる線刻とは、ずらして刻まれている。また、右側には平行線の上二本付近に二本の円弧を消したような痕跡が残っており、Ｓ字状文を書き直した痕跡かもしれない。頸部の破損については、顎の下側は割れ口が新しく、発見時以後の欠損と推定されるが、頸の後ろあたりは、割れ口が古く、粘土紐の接合部に沿って剥離しているようである。また、頸部の模様についても、下方は途切れるように消えており、水食作用や手擦れなどによって磨耗している可能性がある。

同時に出土したとされる土器についてもここで記述しておく。器表面には竜形土製品とほぼ同様に「S.37.1.1.　多田宣三氏　S.36.12. 庄村矢部字畑出土」と墨書きされている。小型の壺形土器で、口縁部が失われているので口径、器高は不明である。胴部最大径は中位よりやや上にあり、径12.6㎝である。底部径は4.8㎝、やや下に膨らんでおり、



伴出土器（Ｓ=1/2）

丸底化が進行している。器表面は荒れており、外面調整としてはかろうじて幅2.5㎜程の縦方向のヘラミガキが確認できる。内面はヘラケズリが施され、底部と頸部直下に指圧痕が残る。器表面の色調はにぶい橙色（7.5Y6/1）で、胎土には0.5～1㎜大の長石・石英・赤色粒を多く含んでいる。焼成は良好である。時期的には上東編年の才の町Ⅱ式から下田所式に属すると考えられ[4]、弥生時代末～古墳時代初頭のものと推定される[5]。

おわりに

竜形土製品の類例はこれまで確認されておらず、比較検討する資料がないというのが現状である。周辺遺跡をみると、甫崎天神山遺跡（岡山市北区津寺）[6]や津寺三本木遺跡（岡山市北区津寺）[7]などから、弥生時代後期から古墳時代初頭の鳥や動物を象ったと考えられる土製品が出土している。しかし、これらは中実の土製品であり、中空で土器と呼ぶほうが適切と考えられる竜形土製品と本質的に異なるものと考えられる。今後、類例等が確認され、比較検討が可能となることを期待したい。

時期についても、出土状況の詳細が不明なうえ、類例も確認されていないことから、現段階では明確に比定するのは困難である。ただし、伴出したとされる壺形土器と土製品の胎土や色調が類似していることを重視するなら、弥生時代末～古墳時代初頭に属する可能性が高いと言えるであろう。また、矢部寺田遺跡の調査において、古墳時代初頭を中心とした遺物・遺構が確認されていることも、このことを補強するものと思われる。

本製品については、その重要性や希少性のため、各地の博物館等への貸し出しや写真提供が増えつつある。しかし、これまで正式な報告等がなされておらず、出土地等の情報があいまいなまま、遺物だけが一人歩きする状況があった点は否定できない。今回の報告によって、そうした状況が解消できれば幸いである。（藤原）

註

(1) 春成秀爾「変幻する龍－弥生土器・銅鏡・古墳の絵－」
『ものがたり日本列島に生きた人たち 5 絵画』岩波書店　2000
春成秀爾『祭りと呪術の考古学』塙書房　2011
(2) 福本 明　「56　矢部寺田遺跡（矢部）」『新修倉敷市史　第一巻　考古』倉敷市　1996
(3) 大橋雅也「備前・備中における古代山陽道と駅家」『考古学研究会例会シンポジウム5』
考古学研究会　2006
(4) 柳瀬昭彦「川入・上東遺跡の弥生式土器及び古式土師器について」
『川入・上東』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16　岡山県教育委員会　1977
(5) 伴出土器の時期等については総社市埋蔵文化財学習の館の平井典子氏にご教示いただきました。
(6) 正岡睦夫・柴田英樹『山陽自動車道建設に伴う発掘調査8』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89
岡山県教育委員会　1994
(7) 高畑知功ほか『津寺三本木遺跡 津寺一軒屋遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告142
岡山県教育委員会　1999

印刷仕様

紙　　質	表紙：サンマット160kg（PP張り）
	本文：ニューエイジ70kg
	折込：上質紙70kg
D　T　P	Mac OS 10.9.5　Adobe InDesign CS6　Adobe Photoshop CS6
使用フォント	モリサワ OpenType フォント （リュウミン L-KL・中ゴシック BBB・太ゴシック B101・ 見出ゴシック MB31・じゅん101）
製　　本	無線綴じ

倉敷埋蔵文化財センター年報15
－平成25・26年度－

平成28年3月31日印刷発行

発 行　倉敷市教育委員会

編 集　倉敷埋蔵文化財センター

〒712-8046　倉敷市福田町古新田940番地

TEL 086-454-0600

リサイクル適性Ⓑ
この印刷物の表紙は板紙へ、
それ以外は印刷用の紙へ
リサイクルできます。

The Annual Report
Of
Kurashiki Archaeological Center

Volume15 2013・2014

Kurashiki
Archaeological Center

March 2016

Ⓑ